

【表紙】

| | |
|------------|--|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条第 1 項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 2025年 6 月26日 |
| 【事業年度】 | 第61期(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
| 【会社名】 | 株式会社デルソーレ |
| 【英訳名】 | Delsole Corporation |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 大河原 泰 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都江東区有明三丁目 4 番10号 |
| 【電話番号】 | 03(6736)5678 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 印部 修一 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都江東区有明三丁目 4 番10号 |
| 【電話番号】 | 03(6736)5678 |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役 印部 修一 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号) |

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

| 回次 | 第57期 | 第58期 | 第59期 | 第60期 | 第61期 |
|--------------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 決算年月 | 2021年 3 月 | 2022年 3 月 | 2023年 3 月 | 2024年 3 月 | 2025年 3 月 |
| 売上高 (千円) | 16,630,621 | 15,458,153 | 16,893,408 | 17,784,656 | 15,403,734 |
| 経常利益 (千円) | 613,822 | 998,830 | 515,984 | 1,267,022 | 539,103 |
| 当期純利益又は当期純損失 (千円) | 251,361 | 641,692 | 302,973 | 599,447 | 422,804 |
| 持分法を適用した場合の投資損失 (千円) | - | 2,491 | 65 | - | 214 |
| 資本金 (千円) | 922,939 | 922,939 | 922,939 | 922,939 | 922,939 |
| 発行済株式総数 (株) | 9,105,290 | 9,105,290 | 9,105,290 | 9,105,290 | 9,105,290 |
| 純資産額 (千円) | 5,420,733 | 5,966,622 | 6,081,804 | 6,632,146 | 6,120,096 |
| 総資産額 (千円) | 10,659,738 | 10,629,678 | 11,029,657 | 10,737,497 | 10,244,632 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 595.35 | 655.31 | 682.96 | 744.76 | 687.27 |
| 1株当たり配当額 (円) | 10.00 | 12.00 | 10.00 | 12.00 | 15.00 |
| (1株当たり中間配当額) (円) | (-) | (-) | (-) | (-) | (-) |
| 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額 (円) | 27.61 | 70.48 | 33.74 | 67.32 | 47.48 |
| 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円) | - | - | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 50.9 | 56.1 | 55.1 | 61.8 | 59.7 |
| 自己資本利益率 (%) | 4.7 | 11.3 | 5.0 | 9.4 | 6.6 |
| 株価収益率 (倍) | 17.4 | 7.6 | 11.8 | 9.1 | - |
| 配当性向 (%) | 36.2 | 17.0 | 29.6 | 17.8 | - |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 284,902 | 1,637,998 | 395,517 | 1,106,740 | 903,435 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 382,744 | 343,696 | 67,116 | 152,371 | 254,719 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー (千円) | 317,822 | 671,073 | 276,666 | 346,603 | 168,457 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 (千円) | 974,387 | 1,597,615 | 1,649,350 | 2,257,115 | 2,737,373 |
| 従業員数 〔外、平均臨時雇用人員〕 (名) | 310 〔691〕 | 294 〔674〕 | 262 〔737〕 | 247 〔712〕 | 250 〔677〕 |
| 株主総利回り (%) | 102.1 | 115.6 | 89.6 | 136.5 | 104.0 |
| (比較指標：配当込みTOPIX) (%) | (142.1) | (145.0) | (153.4) | (216.8) | (213.4) |
| 最高株価 (円) | 680 | 643 | 548 | 788 | 611 |
| 最低株価 (円) | 403 | 463 | 379 | 382 | 412 |

- (注) 1. 第57期及び第60期の持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社がないため記載しておりません。
2. 第61期の1株当たり配当額には、創立60周年記念配当3円を含んでおります。
3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。
4. 従業員数は就業人員を表示しており、臨時従業員は年間の平均雇用人員(1日8時間換算)を〔外書〕で記載しております。
5. 臨時従業員には、パートタイマーと嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。なお、59期より有期雇用者については従業員数から減するとともに臨時従業員に加えた記載に変更しております。
6. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号、2020年3月31日)等を第58期の期首から適用しており、第58期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。
7. 第61期の株価収益率及び配当性向は当期純損失であるため記載しておりません。
8. 最高株価及び最低株価は、2022年4月3日以前は東京証券取引所JASDAQにおけるものであり、2022年4月4日以降は東京証券取引所スタンダード市場におけるものであります。

2 【沿革】

| 年月 | 事項 |
|-----------|---|
| 1964年11月 | 株式会社ジェー アンド シーカンパニーを設立、米国より冷凍ピザを輸入し、販売を開始 |
| 1965年 5 月 | 東京都目黒区に工場を建設、ピザの自社製造を開始(1981年11月に閉鎖) |
| 1969年 7 月 | 福岡県粕屋郡古賀町に量産工場(現九州工場)を建設、ピザの全国販売を開始 |
| 1977年 5 月 | 大阪府大阪市西区に大阪営業所(現大阪支店)を開設 |
| 1981年11月 | 商号を「株式会社ジェーシー・フーズ」に変更 |
| 1982年 4 月 | 千葉県成田市に東京工場(成田工場)を建設、最新の自動機械の導入により、ピザの量産体制を確立 |
| 1985年 9 月 | ピザの大手宅配チェーンに食材供給を開始 神奈川県川崎市高津区にチーズの加工製造を目的とした三菱商事株式会社との合併会社、株式会社ジェー・シー・シーを設立 |
| 1988年 9 月 | 北海道二世郡八雲町に「ハーベスター八雲」開場 |
| 1989年 8 月 | 千葉県香取郡大栄町に千葉工場を建設、操業開始 |
| 1993年 2 月 | 日本証券業協会に店頭登録銘柄として登録 |
| 1996年 2 月 | デルソーレブランドの販売を開始 |
| 1997年 6 月 | 東京都稲城市に多摩工場を建設、ピザ・エスニックブレッドの大量生産が可能なライン体制を確立 |
| 2000年 9 月 | 商号を「株式会社ジェーシー・フーズネット」に変更 |
| 2003年10月 | 株式会社ジェーシー・フーズネットと株式会社コムサネットが合併し、「株式会社ジェーシー・コムサ」設立、本社を東京都渋谷区恵比寿に移転 |
| 2004年12月 | ジャスダック証券取引所に上場 |
| 2005年 3 月 | 北海道「ハーベスター八雲」を本格石窯焼きピザ&ハーブ鶏のレストランにリニューアル |
| 2008年 3 月 | 農林水産省主催の「第16回優良フードサービス事業者等・国産食材安定調達部門」の農林水産大臣賞を受賞 |
| 2014年 3 月 | インドネシア・ジャカルタにPT Indofood Comsa Sukses Makmurを設立 |
| 2015年 3 月 | 第三者割当により資本金を9億2,293万円に増資 |
| 2020年 7 月 | ブランド名と社名を統一して商号を「株式会社デルソーレ」に変更するとともに、本社を東京都江東区有明(現住所)に移転 |
| 2021年 9 月 | アンテナショップ「デルソーレSHOP」オープン(「グリルハーベスター大崎」併設) |
| 2022年 4 月 | 東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所のJASDAQ(スタンダード)からスタンダード市場に移行 |
| 2023年 7 月 | 北海道「ハーベスター八雲」隣接地に「八雲ピザ工房」新設 創立60年を記念して、デルソーレ史上最高級の冷凍ピザ「HOKKAIDO PIZZA」4種を発売 |

3 【事業の内容】

当社は、食品事業及び外食事業を行っております。各事業の内容及びセグメントとの関連は以下のとおりであります。

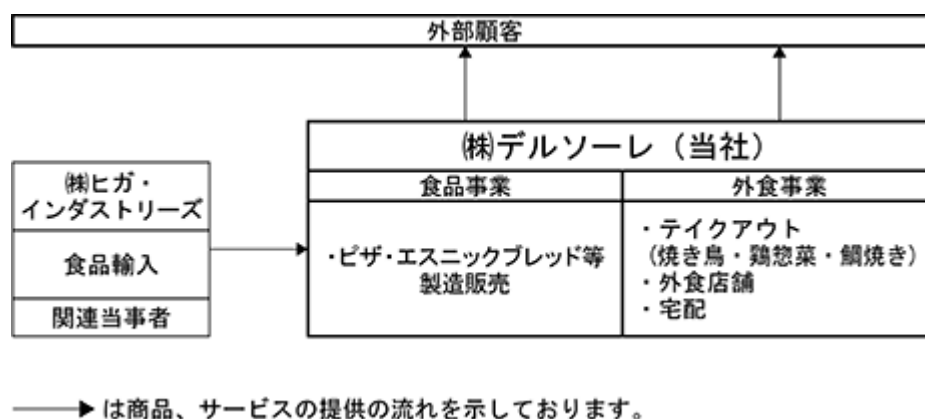
（食品事業）

当セグメントにおいては、ピザおよびエスニックブレッド製品等の製造、販売を行っております。なお、関連当事者である株式会社ヒガ・インダストリーズから商品及び原材料の仕入を行っております。

（外食事業）

当セグメントにおいては、高級串焼・鶏惣菜および昇運・昇福鯛焼きのテイクアウト業態（直営・フランチャイズ）、外食店舗、宅配事業を展開しております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

| 名称 | 住所 | 資本金 (千円) | 主要な事業の内容 | 議決権の所有（又は被所有）割合（％） | 関係内容 |
|-----------------------|---------------|-------------|----------|--------------------|---------------|
| （関連会社） 二海鷲ウイスキー(株) | 北海道二世郡 八雲町 | 74,000 | ウイスキーの製造 | 33.8 | 当社従業員1名が役員を兼任 |

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

2025年3月31日現在

| 従業員数(名) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(千円) |
|--------------|---------|-----------|------------|
| 250 (677) | 43.7 | 13.4 | 5,266 |

| セグメントの名称 | 従業員数(名) |
|----------|--------------|
| 食品事業 | 163 (443) |
| 外食事業 | 71 (230) |
| 全社(共通) | 17 (4) |
| 合計 | 250 (677) |

- (注) 1. 従業員数は執行役員8名を含む就業人員であり、臨時従業員(有期雇用・短時間雇用)の平均雇用人員は()外数で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(2) 労働組合の状況

労使関係は安定しており、特記すべき事項はありません。

(3) 男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

| 当事業年度 | | | |
|------------------------------|----------------------|-----------|---------------------|
| 男性労働者の 育児休業取得率(%) (注)2 | 労働者の男女の賃金の差異(%) (注)1 | | |
| | 全労働者 | うち正規雇用労働者 | うち有期雇用・ 短時間雇用労働者 |
| 33.3 | 66.5 | 77.2 | 93.8 |

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」(平成27年法律第64号)の規定に基づき、算出したものであります。なお、有期雇用・短時間雇用労働者の人員数については、正規雇用労働者の所定労働時間を基準に換算しております。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」(平成3年法律第76号)の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」(平成3年労働省令第25号)第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 経営方針

当社は、日本におけるビザのパイオニアとして1964年に創業しました。以来、ナン・ピタ・トルティーヤなど世界のおいしいパンの製造、チーズ加工などに業務を拡大、さらにお客様に直接お届けできる外食・中食事業を展開し、「トータルフードサービス」へと成長してまいりました。

2023年度(2024年3月期)から2026年度(2027年3月期)までの事業運営に関する「中期経営計画2026」を策定し、経営理念である「食と食の文化を通じてお客様に満足と幸せを提供する」ことを一貫して追い求め、「食の安全・安心」を第一に掲げて、「“おいしい”で世界をつなぐ」をミッションに、業績の向上と財務体質の改善を図り、経営基盤の強化に取り組んでおります。

(2) 経営環境および優先的に対処すべき課題

生活に直結する食品を中心に物価の上昇が続いており、消費動向に不透明感が増しています。また米国の政策をはじめとした不安定な国際情勢等による、為替相場や原材料・資源価格等への影響に加え、慢性的な人手不足、人件費・物流費の上昇も懸念されます。先行きの不確実性が高まる中で消費者の生活防衛意識はさらに強まると想定され、食品・外食業界を取り巻く環境は、より厳しさを増すものと思われます。

2024年10月に千葉工場で発生した火災による一部製造ラインの操業停止が続いており、他工場も含めた製造可能数量に限界があるため、一部製品の出荷量削減および休売といった措置を続けております。当社としては、引き続き早期復旧、販売再開に全力を挙げるとともに、収益追求に向けた食品事業・外食事業の抜本的強化と、BCPと原価構造を踏まえた生産体制の再構築に取り組んでまいります。

「食の安全・安心」を最優先にした品質管理体制機能の充実

当社はISO22000の認証を全工場で取得し、HACCPシステムを取り入れた食品安全マネジメントシステムに従って、製品の安全管理に努めております。さらに、多摩工場および千葉工場では2023年4月24日にFSSC22000認証を取得し、国際基準に従った食品安全管理に努めております。

引き続き製品に使用する原材料の安全性確認、衛生的な製造環境の維持管理、製造工程の管理・検証を通じて、安心して召し上がって頂ける製品をお届けしてまいります。

食品事業において、

- a. 国内営業：収益重視型への販路・商品見直し、基礎開発強化とブランド力向上
- b. 生産・物流：BCPと原価構造を踏まえた生産・物流体制の再構築

食品事業におきましては、外食業界等を主要取引先とする業務用分野では堅調に推移しているものの、食品スーパー・生協等の一般家庭用分野では、価格改定が続く中で買い控えや低価格指向が強まる等、厳しさが増して来ております。

こうした状況を踏まえ、取引先・品目毎の方針に基づく、チーム営業の強化と複層階コミュニケーションを徹底するとともに、基礎開発力の向上と多彩な生産ラインを活かし、販路・ビジネス領域の拡充と高付加価値製品の提案強化を図ります。また「デルソーレ」ブランド浸透のため、アンテナショップである「デルソーレSHOP」の戦略的活用、ECサイト・SNSによる情報発信等、様々な施策を展開してまいります。

今後の生産・物流体制については、BCPと原価構造を踏まえ、自前/外部委託等のベストミックスによる再構築を進めていきます。

外食事業において、テイクアウトブランド「おめで鯛焼き本舗」、「京鳥」(焼き鳥・鶏惣菜)を中心とした事業ポートフォリオの確立

外食事業におきましては、訪日外国人の増加等により堅調な需要が続いている一方、コスト上昇圧力は収まらず、慢性的な人手不足もあって、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、コロナ禍における変化対応で培った筋肉質なコスト構造を定着させつつ、既存店の更なる質の向上に引き続き取り組んでおります。新規出店はテイクアウト業態に集中、特に「おめで鯛焼き本舗」を

当社における成長ドライバーとして位置づけ、新商品開発、百貨店・商業施設への催事出店やフランチャイズ加盟活動を中心とした「守り」から「攻め」への転換を図るべく取り組んでまいります。

海外事業を確かな成長軌道に乗せ、今後の食品事業の柱に

輸入については、海外パートナー企業との取り組みにより着実に成果が上がってきましたが、収益性向上と成長市場の開拓による一層の拡大を図るべく、さらなる輸入商材の発掘と販売先の多様化を進めます。輸出については海外からの引き合いも増加しており、問屋主体の間接取引に加え大手取引先との直取引拡大をはじめ、東南アジアを中心とした国別・企業別の販売ルート開拓に努めます。

こうした取り組みを通じ、海外事業を確かな成長軌道に乗せ、今後の食品事業の柱へと拡大を図ります。

「ONE DELSOLE」を行動軸とした、経営資源の最適配分と人的資本活性化

「“おいしい”で世界をつなぐ」というミッション実現のためには、事業・セグメント単位ではなく、「デルソーレというひとつの組織＝ONE DELSOLE」という行動指針のもと、お客様をよりどころに、収益を軸とした全体最適を図っていく必要があると認識しています。このため、2023年4月より、旧「食品事業ユニット」及び旧「外食事業ユニット」の営業組織を一元管理するため、「営業ユニット」を新設のうえ、管下組織を統合・再編しました。ヒト・モノ・カネの経営資源の最適配分の実現と、よりスピード感をもった実行力ある組織体制を目指します。

また、事業環境の変化に対応し続けることが当社の持続的成長を支えるとの認識のもと、従業員各自の特性やスキルを最大限に活かせるよう、ダイバーシティの確保や柔軟なキャリア形成に向けた環境整備、業態を超えた人材育成、活用に努めます。

システム化、データ活用等による強固な管理体制構築と経営の効率化

先行きの不透明な事業環境が続く中、消費者ニーズや価値観の多様化への対応が求められております。引き続きシステム化、データ活用等による業務の標準化、可視化を進めることで、営業活動・業務の効率化、生産・販売の連携強化、工場生産性の向上を図っていきます。あわせて、情報セキュリティ・BCP対応、拡張性等も意識した経営管理システムの高度化に努めてまいります。

ガバナンス体制及び内部統制の充実による経営の健全性の確保

経営の健全性、透明性がより一層求められる経営環境の中、当社は法令遵守を基本として、事業目的や経営の意思決定が迅速かつ確実に伝達され、業務執行が効率的に行われるためのガバナンス・組織管理体制を充実していきます。また取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保する体制の整備にも取り組んでまいります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社のサステナビリティに関する考え方及び取組は、次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) ガバナンス

当社にとってのサステナビリティとは、経営理念に基づく事業展開を通じて、社会・環境・経済に係る課題解決に取り組むことであり、2023年度から2026年度までの事業運営に関する「中期経営計画2026」の基本戦略にも盛り込んでおります。具体的な取り組みについては、取締役会での承認を得たうえで毎期の事業計画に反映されています。

(2) リスク管理

サステナビリティを含めた全社リスクの検討に当たっては、内部監査室が事務局となるリスク管理委員会作業部会を設置しています。取り纏めた内容は経営会議メンバーによって構成されるリスク管理委員会に諮り、リスク及び機会の分析、評価及び対応を審議しています。また組織間の牽制機能が十分に働くように職務分掌の明確化を図り、権限及び責任についても必要に応じて規程を見直すことによって種々のリスク及び機会のコントロールを目指しております。

(3) 人的資本に関する戦略

当社は、事業環境の変化に対応し続けることが当社の持続的成長を支えるとの認識のもと、人的資本を競争力に変えていく諸施策の推進に取り組んでおります。

人材の多様性確保や、業務適正化・生産性向上を図るべく、基幹社員における女性の在籍比率、及び全従業員の平均残業時間の目標を設けるとともに、各自の特性やスキルを最大限に活かせるよう、研修・育成プランの充実、柔軟なキャリア形成に向けた職場環境整備、業態を超えた人材活用等に努めてまいります。

(4) 人的資本に関する指標及び目標

指標及び目標は次のとおりであります。

| 指標 | 目標 | 実績（2025年3月期） |
|------------------|--------------------|--------------|
| 基幹社員における女性の在籍比率 | 2027年3月期まで15%以上維持 | 20.5% |
| 全従業員の一月当たり平均残業時間 | 2027年3月期まで15時間以下維持 | 6.5時間 |

（注）基幹社員とは、正規雇用労働者及びパート従業員を除く有期雇用労働者に区分される者となります。

3 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりであります。なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 食の安全・品質管理

当社は「食の安全・安心」を経営理念に掲げて、原材料の安全性確認、工場における取り組み等を通じ品質管理、衛生管理を徹底し万全の体制で臨んでおります。FSSC22000及びISO22000の管理手法を取り入れ、引き続き品質保証体制の強化に努めてまいります。しかしながら、異物混入及び品質・表示不良品の流通、食中毒等の衛生問題が発生した場合や、食の安全性や品質に対する社会全般の関心の高まり等、当社の想定を超える事象が発生した場合には、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(2) 災害、事故、疾病等の影響

当社は、生産拠点として国内に工場を有しておりますが、地震や台風等の災害や事故等が発生して重大な被害を受けた場合に備えて、緊急危機管理体制の整備や損害保険の活用により財務インパクトを最小限に抑える対応を行っております。しかしながら、複数の工場が重大な被害を受けるなど、当社の想定範囲を超えた災害や事故等が発生した場合には、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

また、新型コロナウイルス感染症などの疾病等の蔓延による消費の低迷、国内外のサプライチェーンの混乱、従業員や取引先への感染による生産・営業活動への支障、市場動向・生活様式の変化等により、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(3) 市場動向、価格変動の影響

原材料価格の変動について

ピザの主原料であるチーズは輸入品に依存しており、地政学リスクの高まりや世界的な需給ギャップの発生、海外生産地における旱魃などの気候変動によって、大幅に価格が乱高下することがあります。また、当社製品の原材料の大きな部分を占める小麦粉の価格も、こうした要因も含め国際的な相場の影響を受けております。当社では、相場情報の収集、分析、調達先の分散や購入契約の方法・時期等を十分検討することにより、原価を安定させるよう努力しておりますが、その価格動向が当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

為替リスクについて

当社が海外から輸入する商品の一部については、外貨建ての契約となっております。為替予約の締結も行っておりますが、為替の変動に伴って当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

物流費の高騰について

当社は物流業者との連携により安定的な物流体制を構築しており、在庫の適正化にも努めております。しかしながら、法令対応、人手不足等を背景に、運搬費・保管費をはじめとした物流コストの上昇が続く中で、生産の合理化や販売価格への転嫁で費用増加を補えなかった場合、当社の業績に大きな影響を及ぼす可能性があります。

(4) 人材確保、労務関連

当社の持続的成長には、各事業における有能な人材の確保・育成が重要であります。しかしながら、雇用環境の多様化や採用競争の激化により、必要な人材の確保が計画通りに進まない場合には、事業活動に支障を来し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 取引先の信用リスク

当社は、販売先や店舗オーナー等に対する与信管理を徹底し債権保全に努めておりますが、これら取引先の収益または財政状態の急激な悪化によっては、売掛債権や敷金・保証金等の回収に支障を来し、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 法令、規制等

法規制について

当社の事業においては、食品衛生法、不当景品類及び不当表示防止法、環境・リサイクル関連法、健康増進法等、様々な法的規制を受けております。これらの法的規制が強化された場合、それに対応するための新たな規制遵守に係る費用が増加すること等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

個人情報の保護について

当社では、従来から、お客様、従業員並びに株主の皆様に関する情報につきましては、適正に管理し、情報の漏洩防止に努めておりますが、万一、不正アクセス等により情報が漏洩した場合、社会的信用の失墜、損害賠償の支払い等により、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(7) 固定資産に関する減損リスク

当社が保有する固定資産については、現時点において必要な減損等の処理を実施しておりますが、今後市況の悪化、需要の減退等に伴い保有固定資産の経済価値が低下した場合には必要な減損処理を実施することになり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(8) カントリーリスク

当社の海外進出形態は現地優良パートナーとの協業を主体としています。これにより、国内規制等の動きをいち早く察知し、現地法制リスクをはじめとするカントリーリスクを最小限に抑えることが可能と考えていますが、これらの国の政治、経済、社会情勢に起因して生じる予期せぬ事態が発生した場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

2024年10月27日に当社千葉工場にて発生した火災により、お客様、お取引様、関係者の皆様に多大なるご心配とご迷惑をおかけしておりますことを謹んでお詫び申し上げます。

当事業年度における当社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当事業年度におけるわが国経済は、社会・経済活動の正常化が進み緩やかな回復基調にある一方、世界的な原材料・資源価格の高騰や円安等による更なる物価上昇懸念、不安定な国際情勢の長期化等、依然として予断を許さない状況が続いております。

食品・外食業界におきましては、消費者の節約志向が高まる中で、原材料価格や人件費、物流費の上昇による収益の圧迫が継続しています。こうした諸コストの高騰に加え、慢性的な人手不足の影響もあり、経営環境は厳しさを増しております。

このような経営環境の中で、当社は2023年度(2024年3月期)から2026年度(2027年3月期)までの事業運営に関する「中期経営計画2026」を策定し、経営理念である「食と食の文化を通じてお客様に満足と幸せを提供する」ことを一貫して追い求め、「食の安全・安心」を第一に掲げて、「“おいしい”で世界をつなぐ」をミッションに、業績の向上と財務体質の改善を図り、経営基盤の強化に取り組んでまいりました。

当事業年度は、主要顧客であったピザチェーンとの取引減少、および火災による一部製品休売の影響により、売上高は15,403百万円（前期比13.4%減）、営業利益は561百万円（同54.0%減）となりました。営業外収益に受取補償金、特別利益に投資有価証券売却益、国庫補助金受贈益を計上しましたが、千葉工場で発生した火災に関連する損失として、営業外費用に操業停止関連費用164百万円、特別損失に火災損失1,147百万円を計上したため、経常利益は539百万円（同57.5%減）、当期純損失は422百万円（前期は599百万円の黒字）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

（食品事業）

食品事業におきましては、経済活動の正常化に伴う人流や消費活動の回復、インバウンド需要の増加等により、業務用分野は堅調に推移いたしました。一方で、小売市場における価格改定が続く中、消費者の生活防衛意識は一層顕著となり、食品スーパー、生協等の家庭用分野では食料品の買い控えや低価格志向が続く等、厳しさが増してきております。加えて、千葉工場の火災によりすべての業態において一部製品の出荷数削減および休売といった措置を行っており、売上面・収益面に大きな影響を及ぼすこととなりました。

このような状況下、業務用については主力である外食市場をはじめとした新規開拓を進めるとともに、既存取引先・重要広域卸問屋への提案強化や、既存商品の更なる拡売、展示会への参加等による関係深化に努めてきました。家庭用については惣菜・ベーカリー分野の強化、家庭用冷凍ピザの投入による市場開拓とともに、アイテム集約等を通じた収益改善を図ってまいりました。

また創立60周年を記念して、本格冷凍ピザ「THE PIZZA」2品に続き、北海道八雲町に新設した「八雲ピザ工房」で製造する、生地・トッピングにこだわったデルソーレ史上最高級の冷凍ピザ「HOKKAIDO PIZZA」4品を、高級量販店、自社ECサイト、デパート催事、ふるさと納税等で高付加価値商品として拡販に努めております。

マーケティング活動として、ピザ、ナン、ピタパン、フォカッチャ、トルティーヤといった「世界のパン」をWEB、YouTube、SNS等多様なチャネルから情報を発信することで、楽しい食文化や食体験を通して食のバリエーションを提供し、食卓を豊かにしたいという想いとともに、市場の拡大を目指しております。

海外ビジネスは、北欧リトアニアの海外パートナー企業との連携によるヨーロッパの本格的な冷凍パン販売に取り組みつつ、米国パートナー企業との冷凍チーズ販売については品質の差別化が認められ、売上を伸ばしております。さらに輸出に関しては、海外からの引き合いも増加しており、円安を追い風に取引を加速させ、今後は当事業の重要な柱として育成してまいります。

販売管理面では、売上規模に見合った在庫水準の適正化や、物流効率化の取り組み等を引き続き進めております。

この結果、当事業年度の売上高は12,322百万円（前期比16.5%減）、特別損失で火災損失1,147百万円の計上もあり、セグメント損失は193百万円（前期はセグメント利益1,513百万円）となりました。

(外食事業)

外食事業におきましては、訪日外国人の増加等により堅調な需要が続いている一方、資源価格の高止まり、円安継続や異常気象に伴う原材料価格の更なる高騰等に加え、今後も恒常的な人手不足が見込まれており、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、既存店の更なる質の向上に取り組んでおります。具体的には食材ロス低減の取り組み、人員配置の最適化や在庫管理、家賃の減免等、徹底したコストコントロールを実施するとともに、テイクアウトブランドの強化による収益改善に引き続き注力してまいりました。特に「おめで鯛焼き本舗」を当社における成長ドライバーとして位置づけ、百貨店や商業施設への催事出店やフランチャイズ加盟活動を中心とした「守り」から「攻め」への転換を図るべく取り組んでおります。

当事業年度は、契約満了に伴い5月に居酒屋・レストラン業態の「燦鶏」1店舗を閉店しましたが、7月に「おめで鯛焼き本舗安達太良サービスエリア上り線店」、11月に「おめで鯛焼き本舗ららぽーと立川立飛店」、12月に「おめで鯛焼き本舗イオンタウン楽々園店」、1月に「おめで鯛焼き本舗ららぽーと和泉店」、3月に「おめで鯛焼き本舗マルト富山店」「おめで鯛焼き本舗さんすて岡山店」を出店しました。

この結果、当事業年度の売上高は3,108百万円（前期比2.2%増）、セグメント利益は253百万円（同242.7%増）となりました。

財政状態の状況

(資産の部)

当事業年度末（以下「当期末」という。）における総資産は、前事業年度末（以下「前期末」という。）から492百万円減少し、10,244百万円となりました。流動資産合計は、前期末から370百万円減少し、5,998百万円となりました。これは主に現金及び預金が480百万円増加した一方で、売掛金が817百万円減少したことによるものです。固定資産合計は、前期末から122百万円減少し、4,246百万円となりました。これは主に機械及び装置（純額）が532百万円減少した一方、繰延税金資産が271百万円増加したことによるものです。

(負債の部)

当期末における負債は、前期末から19百万円増加し、4,124百万円となりました。流動負債合計は、前期末から102百万円減少し、2,631百万円となりました。これは主に千葉工場の火災による火災損失引当金が548百万円増加した一方で、未払法人税等が228百万円、買掛金が160百万円それぞれ減少したことによるものです。固定負債合計は、前期末から121百万円増加し、1,493百万円となりました。これは主に資産除去債務が116百万円増加したことによるものです。

(純資産の部)

当期末における純資産は、前期末から512百万円減少し、6,120百万円となりました。当期純損失422百万円を計上した他、配当金の支払い106百万円により、利益剰余金は529百万円減少しました。

以上により、自己資本比率は前期末の61.8%から59.7%となりました。

キャッシュ・フローの状況

当期末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前期末に比べて480百万円増加し、2,737百万円となりました。当期における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、得られた資金は、前期に比べ203百万円減少し、903百万円となりました。これは税引前当期純損失601百万円を計上した一方で、売上債権の減少による資金増817百万円、減価償却費358百万円、減損損失145百万円等による資金の増加があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、使用した資金は、前期と比べ102百万円増加し、254百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出366百万円があった一方で、投資有価証券の売却による収入142百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、使用した資金は、前期に比べ178百万円減少し、168百万円となりました。これは主に長期借入金の返済による支出60百万円、配当金の支払額108百万円による資金の減少によるものです。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当事業年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 生産高(千円) | 前期比(%) |
|----------|-----------|--------|
| 食品事業 | 7,224,514 | 14.2 |

(注) 金額は、製造原価によっております。

b. 受注実績

食品事業ではピザの一部について受注生産を行っておりますが、受注から納品までの期間が極めて短期で受注残高としては僅少であり、受注実績と販売実績がほぼ同額となりますので、受注状況の記載は省略しております。

c. 販売実績

当事業年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

| セグメントの名称 | 販売高(千円) | 前期比(%) |
|----------|------------|--------|
| 食品事業 | 12,309,596 | 16.5 |
| 外食事業 | 3,094,138 | 2.0 |
| 合計 | 15,403,734 | 13.4 |

(注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。

2. 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

| 相手先 | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|------------|-----------|-------|-----------|-------|
| | 販売高(千円) | 割合(%) | 販売高(千円) | 割合(%) |
| 株式会社日本アクセス | 2,335,565 | 13.1 | 1,892,782 | 12.3 |

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成にあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

財務諸表の作成に当たって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 [経理の状況]

1 [財務諸表等] (1) [財務諸表] [注記事項] (重要な会計上の見積り) 」に記載しております。

当事業年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績の分析

経営成績の分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載しております。

b. キャッシュ・フローの分析

キャッシュ・フローの分析につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

5 【重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社は、長期的成長のための設備拡充を主眼として、省力化、合理化並びに製品の品質向上のための投資を行っております。なお、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を含めて記載しております。

当事業年度の設備投資の総額は467百万円であり、セグメントの設備投資について示すと、次のとおりであります。

(1) 食品事業

当事業年度の主な設備投資は、工場火災復旧等を目的として、食品製造機械の購入を中心とする総額413百万円の投資を実施しました。

当事業年度において、当社千葉工場の火災により、主として機械及び装置で、305百万円の固定資産除却損を計上しました。当該固定資産除却損は、当事業年度の損益計算書で、特別損失の火災損失に含めて計上しております。

(2) 外食事業

当事業年度の主な設備投資は、店舗改装及び設備の更新等を中心とする総額41百万円の投資を実施しました。

なお、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

2025年3月31日現在

| 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 帳簿価額(千円) | | | | | 従業員数 (名) |
|-----------------------|--------------|-------------|----------|------------|--------------------|---------|-----------|-------------|
| | | | 建物 | 機械及び 装置 | 土地 (面積千㎡) | その他 | 合計 | |
| 多摩工場 (東京都稲城市) | 食品事業 | ビザ製造他 | 198,358 | 106,986 | - | 17,761 | 323,106 | 59 |
| 千葉工場 (千葉県成田市) | 食品事業 | ビザ生地 製造他 | 708,655 | 413,959 | 400,237 (16.17) | 264,236 | 1,787,089 | 28 |
| 九州工場 (福岡県古賀市) | 食品事業 | ビザ製造他 | - | - | - | - | - | 8 |
| 食品事業ユニット (福岡県糟屋郡) | 食品事業 | 工場用地 | - | - | 422,783 (17.38) | - | 422,783 | - |
| 食品事業ユニット (東京都江東区) | 食品事業 | 支社機能 | - | - | - | 5,033 | 5,033 | 55 |
| 外食店舗計44店舗 (東京都港区他) | 外食事業 | 店舗設備 | 163,675 | 7,015 | - (18.74) | 27,775 | 198,466 | 78 |
| 本社 (東京都江東区) | - | 本社機能 | 84,074 | - | 4,639 | 9,766 | 98,480 | 17 |

(注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員は含まれておりません。

2. 帳簿価額のうち、「その他」は構築物、車両運搬具、工具、器具及び備品、建設仮勘定、ソフトウェアであります。

3. 建物及び土地の一部を賃借しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

| 事業所名 (所在地) | セグメントの 名称 | 設備の内容 | 投資予定額 | | 資金調達 方法 | 着手年月 | 完了予定 年月 | 完成後 の増加 能力 |
|------------------|--------------|-------|------------|--------------|------------|----------|------------|------------------|
| | | | 総額 (千円) | 既支払額 (千円) | | | | |
| 千葉工場 (千葉県成田市) | 食品事業 | 工場設備 | 700,000 | 219,673 | 自己資金 | 2024年11月 | 2025年9月 | (注) |

(注) 完成後の増加能力は、合理的な算定が困難であるため記載しておりません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 14,000,000 |
| 計 | 14,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在 発行数(株) (2025年3月31日) | 提出日現在 発行数(株) (2025年6月26日) | 上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 | 内容 |
|------|-----------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 普通株式 | 9,105,290 | 9,105,290 | 東京証券取引所 スタンダード市場 | 単元株式数は100株 であります。 |
| 計 | 9,105,290 | 9,105,290 | | |

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式 総数増減数 (株) | 発行済株式 総数残高 (株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金 増減額 (千円) | 資本準備金 残高 (千円) |
|---------------|-----------------------|----------------------|----------------|---------------|----------------------|---------------------|
| 2015年3月18日(注) | 627,400 | 9,105,290 | 99,129 | 922,939 | 99,129 | 1,125,651 |

(注) 有償第三者割当に伴う新株発行による増加であります。

発行価格は、1株につき316円であり、資本組入額は、1株につき158円であります。

割当先は、PT INDOFOOD CBP SUKSES MAKMUR TBKであり、新規発行の全株式を割当てました。

(5) 【所有者別状況】

2025年3月31日現在

2020年3月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数100株) | | | | | | | 単元未満株式の状況 (株) | |
|---------------------|---------------------|-------|--------------|------------|-------|------|-----------|------------------|-------|
| | 政府及び 地方公共 団体 | 金融機関 | 金融商品 取引業者 | その他の 法人 | 外国法人等 | | 個人 その他 | | 計 |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数 (人) | | 4 | 17 | 31 | 8 | 11 | 2,099 | 2,170 | |
| 所有株式数 (単元) | | 4,179 | 602 | 14,935 | 9,116 | 149 | 62,026 | 91,007 | 4,590 |
| 所有株式数 の割合 (%) | | 4.59 | 0.66 | 16.41 | 10.02 | 0.16 | 68.16 | 100.00 | |

(注) 1. 自己株式200,292株は、「個人その他」に2,002単元、「単元未満株式の状況」に92株が含まれております。

2. 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式が、2単元含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2025年3月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(株) | 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%) |
|--|---|-----------|-----------------------------------|
| 大河原 愛子 | 東京都港区 | 2,272,000 | 25.51 |
| 大河原 毅 | 東京都港区 | 1,534,250 | 17.23 |
| PT INDOFOOD CBP SUKSES MAKMUR TBK(常任代理人SMBC日興証券株式会社) | ATT MR.RUTHMIN SUDIRMAN PLAZA INDOFOOD TOWER 23FLJL.JEND SUDIRMAN KAV76-78 JAKARTA 12910 INDONESIA (東京都千代田区丸の内1丁目5番1号新丸の内ビルディング) | 900,000 | 10.11 |
| 株式会社ミツウロコグループホールディングス | 東京都中央区京橋3丁目1番1号 | 300,000 | 3.37 |
| 株式会社ニチレイフーズ | 東京都中央区築地6丁目19番20号 | 255,000 | 2.86 |
| マリンフード株式会社 | 大阪府豊中市豊南町東4丁目5番1号 | 253,500 | 2.85 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 | 215,000 | 2.41 |
| 株式会社商工組合中央金庫 | 東京都中央区八重洲2丁目10番17号 | 200,000 | 2.25 |
| 日清製粉株式会社 | 東京都千代田区神田錦町1丁目25番地 | 180,000 | 2.02 |
| 和田 隆介 | 東京都世田谷区 | 155,700 | 1.75 |
| 計 | | 6,265,450 | 70.36 |

(注) 上記のほか、自己株式200,292株を所有しております。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年3月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|----------------|----------|----|
| 無議決権株式 | | | |
| 議決権制限株式(自己株式等) | | | |
| 議決権制限株式(その他) | | | |
| 完全議決権株式(自己株式等) | 普通株式 200,200 | | |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 8,900,500 | 89,005 | |
| 単元未満株式 | 普通株式 4,590 | | |
| 発行済株式総数 | 9,105,290 | | |
| 総株主の議決権 | | 89,005 | |

(注)「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式200株が含まれております。
また、「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式92株が含まれております。

【自己株式等】

2025年3月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数 (株) | 他人名義 所有株式数 (株) | 所有株式数 の合計 (株) | 発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%) |
|-----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|---------------------|------------------------------------|
| (自己保有株式) 株式会社デルソーレ | 東京都江東区有明3丁目 4番10号 | 200,200 | | 200,200 | 2.20 |
| 計 | - | 200,200 | | 200,200 | 2.20 |

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(千円) |
|-----------------|--------|-----------|
| 当事業年度における取得自己株式 | 100 | 52 |
| 当期間における取得自己株式 | | |

(注) 当期間における取得自己株式には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買い取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|----------------------------------|---------|-------------|---------|-------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(千円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(千円) |
| 引き受ける者の募集を行った取得自己株式 | | | | |
| 消却の処分を行った取得自己株式 | | | | |
| 合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式 | | | | |
| その他 | | | | |
| 保有自己株式数 | 200,292 | | 200,292 | |

(注) 当期間における保有自己株式数には、2025年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様に対する利益配分を経営の最重要課題の一つであると認識しております。配当金につきましては、業績及び今後の事業計画、財務状況を総合的に勘案したうえで、安定した配当を継続してまいります。また、将来の事業展開と経営体質強化のため必要な内部留保を確保しつつ、成長投資と株主還元の両立に努めます。

このような方針に基づき、当事業年度の配当につきましては、創立60周年記念配当3円を含め、1株当たり15円といたしました。

内部留保金につきましては、新製商品の開発ならびに設備投資のために充当し、持続的な成長と中長期的な企業価値向上の実現を図ります。

また、当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。これらの剰余金の配当の決定機関は、中間配当については取締役会、期末配当については株主総会であります。

なお、基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

| 決議年月日 | 配当金総額（千円） | 1株当たり配当額（円） |
|-------------------|-----------|-------------|
| 2025年6月25日 定時株主総会 | 133,574 | 15.00 |

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、企業理念である「食と食の文化を通じてお客様に満足と幸せを提供する」ことの実現に向け、株主様をはじめとするステークホルダーと認識を共有しその理解を得ながら、経営の透明性を確保しつつ持続的な成長と企業価値の向上を図るために、経営上の組織体制や仕組みを整備することでコーポレート・ガバナンスの強化に努めております。

また、当社は、今後とも、監査役会設置会社として社外監査役を含む監査役会の強化を図るとともに、経営の健全性の向上を目指してまいります。

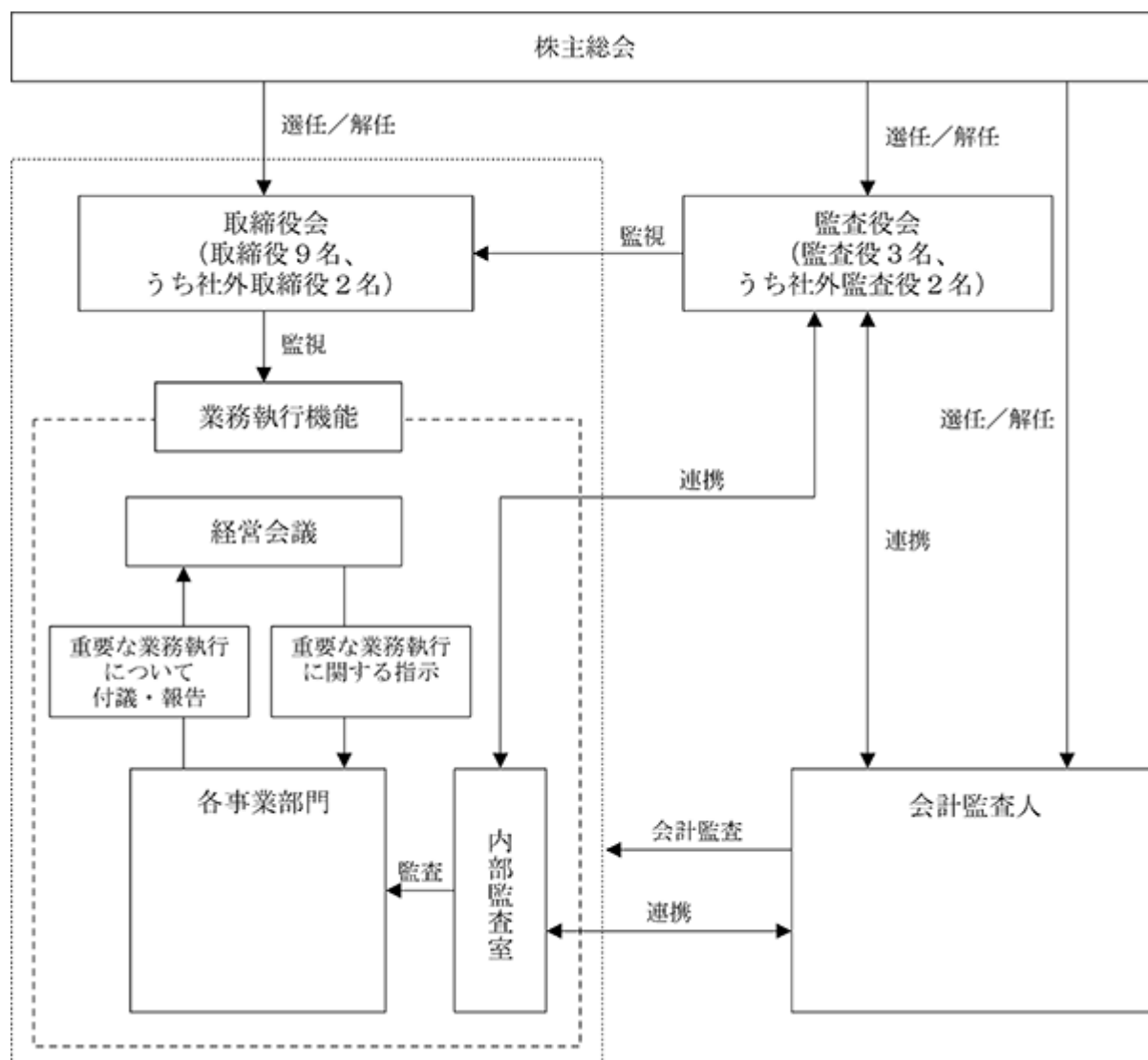
企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、株主総会、取締役会、監査役会、会計監査人の各機関を設置しております。当社の取締役会は、社外取締役2名を含む9名で構成されており、監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されております。

社外取締役は豊富な経験・見識に基づく助言・提言と客観的立場からの業務執行状況の監督を、社外監査役は独立的見地に立った業務遂行全般の監査を行うことにより企業統治の強化を図っております。

当社では職務執行体制の充実強化を図るため、執行役員制度を採用し、職務執行の責任と権限を付与しております。また、重要な事項の業務執行状況について協議・報告し、個別重要案件や諸問題に対する方針を的確かつ迅速に意思決定するために取締役会メンバーを構成メンバーとし、さらに議題に応じて指名される執行役員が出席する経営会議を月2回開催しております。

当社の企業統治の体制図は以下のとおりであります。



企業統治に関するその他の事項

a. 内部統制システムの整備の状況

当社は、内部統制システムの整備に関する基本方針について、2015年5月25日開催の当社取締役会において、一部改訂いたしました。

組織的には、内部監査室が内部統制の構築、維持・整備にあたり、代表取締役へ報告する体制となっております。また、内部監査室は内部統制システムの独立的モニタリング部門としての役割を十分に認識し、業務全般に関し、管理・運営の制度、及び業務執行状況を合法性、合理性及び信頼性の観点から評価し、助言・提言を行うこととしております。

b. 当社及び当社子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社グループは、役員及び従業員の法令遵守を目的とする行動規範の一環として、コンプライアンス10カ条を整備しており、その運用の徹底をはかります。

また、当社グループのすべての役員・従業員の職務に関する不法行為等について、外部への法律相談等の窓口を設置するとともに、研修等によりコンプライアンス意識の向上をはかります。また、当社の監査役は、当社グループの主要な会議に出席し、意思決定事項が法令及び定款に適合することを確認することとします。

c. 取締役の職務の執行にかかる情報の保存及び管理に関する体制

当社は取締役の職務執行に係る電磁的記録を含む文書、その他重要な情報について、法令及び社内規程に基づき適正に保存及び管理し、取締役及び監査役は必要に応じこれを閲覧できることとします。

d. 当社及び当社子会社の損失の危険に関する規程その他の体制

当社グループは、法令や定款違反その他の事由に基づく損失の危険を発見した場合には、社内規程（各業務に関する規程、経理財務に関する規程等）に基づき、必要な指示を各部署に対して行うこととします。

また、リスク管理委員会を開催し、事業等に係るリスクの洗い出し、選別並びにその対応を検討し、会社全体として取組む体制を構築します。さらにコンプライアンス意識の徹底をリスク管理の重要な要素と位置づけており、社内での啓蒙に努めております。

また、組織間の牽制機能が充分に働くように職務分掌の明確化を図り、権限及び責任についても必要に応じて規程を見直すことによって種々のリスクのコントロールを目指しております。

e. 当社及び当社子会社の取締役の職務執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループは、取締役会で各取締役の職務分担を決定し、規程により取締役の権限及び責任等を明確にし、業務執行の適正化及び効率化をはかるものとします。

また、取締役会は原則として毎月一回開催するほか、必要に応じて臨時に開催し、法令、定款及び取締役会規程に定める重要事項を決議しております。

f. 当社及び当社子会社からなる当社グループにおける業務の適正を確保するための体制

コンプライアンス体制及び危機管理体制は、当社を中心としてグループ全体での整備・運用を行うこととしますが、グループ全体の業績確保のため、各社の目標と役割分担は明確化して業務遂行にあたります。

当社は、子会社に対し法令遵守、損失の危機の管理等の主要な内部統制項目につき、必要に応じ内部統制システムの整備に関する助言・指導を行うものとします。なお、財務情報の信頼性の確保については連結対象会社を対象に内部統制システムを整備するものとします。

g. 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制とその場合における当該使用人に関する事項

当社は、監査役の求めがあったときは、監査役の職務を補助する使用人として適切な人材を配置するものとします。

h. 監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項及び当該使用人に対する指示の実行性の確保に関する事項

監査役の職務を補助すべき使用人は、当該職務を行うにあたっては、監査役の指揮・命令のみに服し、取締役その他の使用人の指揮・命令は受けないものとします。

i. 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制

監査役は、取締役会をはじめ重要な会議に出席し、全ての社内稟議書を閲覧するとともに、内部監査と緊密な連携を保ちつつ、客観的な監査を実施する体制を整備しております。

また、当社グループの取締役及び使用人は、法令等の違反行為等、当社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実については、発見次第、直ちに当社の監査役に対して報告を行うものとします。

j. その他監査役の監査が実効的に行われていることを確保するための体制

当社グループの役員及び従業員は、監査役の要請事項に対して積極的に協力することとし、監査役は必要に応じて弁護士・公認会計士など各分野の専門家等を活用できるものとします。さらに、監査役は全ての内部監査報告書、改善指示書を閲覧し、必要に応じて内部監査室との常同監査を実施する体制を整備しております。

また、当社は、監査役がその職務の執行について生じる費用の前払い等の請求をしたときは、当該請求に係る費用が当該監査役の職務の執行に必要なでないと認められた場合を除き、速やかに当該費用を負担するものとします。

k. 財務報告の信頼性を確保するための体制

当社グループは財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法に基づく有効かつ適切な内部統制報告書提出に向け、内部統制システムの構築を行います。また、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、必要は是正を行うこととします。

l. 反社会的勢力の排除について

当社グループは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える勢力及び団体との関係を遮断することを社内に徹底しており、これら勢力からの不当な要求に接した時には毅然とした態度により対応するようにコンプライアンス10カ条で定めるとともに、不当要求等には、警察や弁護士等の外部専門機関と連携する協力体制を整備しております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項の規定により、株主総会の特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を、定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、株主総会において、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めております。

また、取締役の選任決議は累積投票によらないものとする旨を、定款に定めております。

取締役の定数

当社の取締役は3名以上とする旨を、定款に定めております。

取締役会で決議できる株主総会決議事項

a. 自己株式の取得

当社は、自己株式の取得について、単元未満株式の売渡請求制度における不足自己株式の補充、その他の事情に対応して、機動的に自己株式の買受けを行えるよう、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって、市場取引等により自己株式を取得することができる旨を、定款に定めております。

b. 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年9月30日の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に対し、剰余金の配当（中間配当金）を行うことができる旨を、定款で定めております。

当事業年度における取締役会の活動状況

取締役会は、取締役会付議事項・報告事項に関する内規に従い、当社の経営に関する基本方針、重要な業務執行に関する事項、株主総会の決議により授權された事項の他、法令および定款に定められた事項を決議し、また、法令に定められた事項および重要な業務の執行状況につき報告を受けます。当社は取締役会を原則月1回開催する他、必要に応じて随時開催しております。当事業年度におきましては、合計で16回開催いたしました。

a. 個々の取締役の出席状況

| 区 分 | | 出席回数 (出席率) |
|----------|-----------|---------------|
| 代表取締役CEO | 大河原 毅 | 16回(100%) |
| 代表取締役社長 | 大河原 泰 | 16回(100%) |
| 取締役 | アーネストM.比嘉 | 16回(100%) |
| 取締役 | 森山 敏治 | 16回(100%) |
| 取締役 | 印部 修一 | 16回(100%) |
| 取締役 | 三枝 広幸 | 16回(100%) |
| 取締役 | 武長 栄治 | 16回(100%) |
| 取締役 | 長林 道生 | 12回(100%) |
| 社外取締役 | 遠藤 貢 | 14回(88%) |
| 社外取締役 | 近藤 正樹 | 11回(92%) |

b. 取締役会での主な審議テーマ・付議報告件数

| 分類 | 2025年3月期 |
|--------------|----------|
| 経営方針・計画開示 | 8件 |
| 決算・財務関連 | 39件 |
| 組織・人事関連 | 11件 |
| ガバナンス・内部統制関連 | 26件 |
| 個別案件 | 2件 |
| 合計 | 86件 |

（注）長林道生氏および近藤正樹氏は、2024年6月25日開催の定時株主総会において取締役に就任しておりますので、就任後に開催された取締役会の出席状況を記載しております。

責任限定契約の内容の概要

会社法第427条第1項および定款の規定に基づき社外取締役である遠藤貢氏および近藤正樹氏との間において、

また社外監査役である山田勝重氏との間において、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項に定める最低責任限度額としております。また、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、保険会社との間で、当社ならびに当社取締役、当社監査役等を被保険者として会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しております。なお、当該契約の保険料は、全額当社が負担しております。

当該契約の内容の概要は、取締役、監査役等の役員がその地位に基づいて行った行為に起因して負うこととなる法律上の損害賠償金および争訟費用（株主代表訴訟を含む）を補償の対象としております。ただし、被保険者が違法に利益または便宜を得た場合、また犯罪行為、不正行為、詐欺行為または法令、規則または取締役法規に違反することを認識しながら行った行為等については、補償の対象外としております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性12名 女性0名 (役員のうち女性の比率0%)

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|----------|-------|--------------------|-----------|--|-------|---------------|
| 代表取締役CEO | 大河原 毅 | 1943 年 9 月 5 日生 | 1970年11月 | 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社に入社 | (注) 4 | 1,534 |
| | | | 1971年11月 | 同社取締役に就任 | | |
| | | | 1973年 7 月 | 同社代表取締役常務に就任 | | |
| | | | 1978年 8 月 | 同社代表取締役副社長に就任 | | |
| | | | 1984年 2 月 | 同社代表取締役社長に就任 | | |
| | | | 2000年 4 月 | ジャパン・リテイル・メンテナンス株式会社(現ワタミエナジー株式会社)取締役に就任 | | |
| | | | 2002年 2 月 | 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社特別顧問に就任 | | |
| | | | 2002年 3 月 | 三菱商事株式会社顧問に就任 当社に入社 顧問に就任 | | |
| | | | | 株式会社コムサネット代表取締役社長に就任 | | |
| | | | 2002年 6 月 | 当社取締役に就任 | | |
| | | | 2003年10月 | 当社代表取締役会長に就任 | | |
| | | | 2006年 1 月 | 株式会社ほのぼの運動代表取締役社長に就任 | | |
| | | | 2006年 4 月 | 株式会社ポポラマーマ取締役に就任 | | |
| | | | 2007年 6 月 | 当社代表取締役CEOに就任(現任) | | |
| | | | 2011年 6 月 | 当社事業開発本部COO委嘱 | | |
| | | | 2012年12月 | 爵士客香港控股有限公司主任董事に就任 | | |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|---------|-------|--------------------|-----------|--|-------|---------------|
| 代表取締役社長 | 大河原 泰 | 1962 年 7 月 12日生 | 1986年 4 月 | 三菱商事株式会社に入社 | (注) 4 | 3 |
| | | | 1997年 4 月 | ドイツ三菱商事会社生活産業部 マネージャーに就任 | | |
| | | | 2004年 7 月 | 三菱商事株式会社本店セメントユ ニットマネージャーに就任 | | |
| | | | 2008年10月 | Toyo Tire Europe GmbH エキゼク ティブバイスプレジデントに就任 | | |
| | | | 2012年 4 月 | ドイツ三菱商事会社生活産業部ゼ ネラルマネージャーに就任 | | |
| | | | | 欧州三菱商事会社生活産業部部門 担当 (EVP) に就任 | | |
| | | | 2017年 5 月 | TOYO TIRE株式会社グローバルサ プライ推進室室長 (本部長) に就 任 | | |
| | | | 2019年 7 月 | 当社執行役員代表取締役社長補佐 に就任 | | |
| | | | 2020年 3 月 | 当社デルソーレ事業本部海外関連 市場開発グループGL兼デルソーレ 購買グループGLに就任 | | |
| | | | 2020年 6 月 | 当社取締役 に就任 代表取締役社長補佐兼グローバル 事業開発室長兼購買グループGLを 委嘱 | | |
| | | | 2020年 8 月 | 当社代表取締役社長補佐兼グロー バル事業開発室長兼購買グループ GLを委嘱 生産本部、マーケティンググルー プ、R&D グループ、品質管理グ ループを管掌 | | |
| | | | 2021年 4 月 | 当社製造・開発ユニット管掌 製販戦略会議海外事業統括担当を 委嘱 | | |
| | | | 2022年 6 月 | 当社常務取締役に就任 当社戦略企画管掌 | | |
| | | | 2023年 6 月 | 当社代表取締役社長に就任 (現 任) | | |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-----------------|----------------|------------------|-----------|--|-------|---------------|
| 取締役 | アーネスト M. 比嘉 | 1952年10月 15日生 | 1976年 8 月 | 株式会社ヒガ・インダストリーズ (現株式会社ドミノ・ピザ ジャパ ン)に入社 | (注) 4 | 115 |
| | | | 1979年 4 月 | 同社代表取締役社長に就任 | | |
| | | | 1985年 9 月 | 米国ドミノ・ピザ社との独占契約 者となり、日本で初めてのホーム デリバリーピザチェーン店をオー プン | | |
| | | | 2010年 2 月 | 株式会社ヒガ・インターナショナ ル(現株式会社ヒガ・インダスト リーズ)代表取締役会長に就任 | | |
| | | | 2010年 6 月 | 当社取締役に就任(現任) | | |
| | | | 2011年 2 月 | ウェンディーズ・ジャパン合同会 社(現ウェンディーズ・ジャパン 株式会社)設立、最高経営責任者 に就任 | | |
| | | | 2013年 6 月 | 株式会社新生銀行社外取締役に就 任 | | |
| | | | 2015年 4 月 | 株式会社ヒガ・インダストリーズ 代表取締役会長兼社長に就任(現 任) | | |
| | | | 2016年 9 月 | ウェンディーズ・ジャパン株式会 社代表取締役会長に就任(現任) | | |
| | | | 2017年 4 月 | 学校法人昭和女子大学理事に就任 (現任) | | |
| | | | 2018年 8 月 | テンプル大学日本校理事に就任 (現任) | | |
| 取締役 営業ユニット管掌 | 森山 敏治 | 1957年7月9 日生 | 1980年 4 月 | 株式会社東京ビデオサービスに入 社 | (注) 4 | 12 |
| | | | 1982年 3 月 | 株式会社ゼンチクに入社 | | |
| | | | 1984年 5 月 | 当社に入社 | | |
| | | | 2005年10月 | 当社ジェーシー事業本部東日本営 業本部グループ東日本第二支店長 に就任 | | |
| | | | 2007年 6 月 | 当社執行役員東日本第二支店長に 就任 | | |
| | | | 2009年 6 月 | 当社執行役員常務東日本支店長兼 営業庶務グループGLに就任 | | |
| | | | 2013年 4 月 | 当社執行役員常務デルソーレ事業 本部東日本支社長兼東日本支社営 業庶務グループTLに就任 | | |
| | | | 2017年 1 月 | 当社執行役員常務東日本支社長兼 東日本支社東京支店長兼東日本支 社特販グループGL兼東日本支社業 務グループGLに就任 | | |
| | | | 2021年4月 | 当社アシスタントディレクター食 品事業ユニット製販戦略会議業務 用営業・特販推進担当に就任 | | |
| | | | 2021年 6 月 | 当社取締役に就任(現任) 食品事業ユニット担当 | | |
| | | | 2022年 6 月 | 当社食品事業ユニット営業統括 | | |
| | | | 2023年 4 月 | 当社営業ユニット管掌(現任) | | |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-----------------|-------|-------------|----------|--|-------|---------------|
| 取締役 管理ユニット管掌 | 印部 修一 | 1967年6月3日生 | 1990年4月 | 株式会社三菱銀行（現株式会社三菱UFJ銀行）に入行 | (注) 4 | 2 |
| | | | 2012年5月 | 同行中小企業審査室兼金融円滑化推進室次長に就任 | | |
| | | | 2013年4月 | 同行池袋支社副支社長に就任 | | |
| | | | 2016年7月 | 同行ビジネスローン部長に就任 | | |
| | | | 2019年7月 | 当社に入社 経営戦略室長代行に就任 | | |
| | | | 2019年11月 | 当社経営戦略室長代行兼管理本部長補佐に就任 | | |
| | | | 2020年6月 | 当社執行役員経営戦略室長兼管理本部長補佐に就任 | | |
| | | | 2021年4月 | 当社アシスタントディレクター経営戦略室長兼専務取締役補佐に就任 | | |
| | | | 2021年6月 | 当社取締役に就任（現任） 管理ユニット管掌（現任） 経営戦略室長を委嘱 | | |
| | | | 2022年6月 | 当社戦略企画室長を委嘱（現任） | | |
| | | | 2023年12月 | 経理・財務チーム長を委嘱 | | |
| 取締役 管理ユニット担当 | 三枝 広幸 | 1963年11月3日生 | 1986年4月 | 東洋火災海上保険株式会社（現セコム損害保険株式会社）に入社 | (注) 4 | 8 |
| | | | 1999年4月 | 同社本店営業企画部課長に就任 | | |
| | | | 2000年4月 | 同社桐生支社支社長に就任 | | |
| | | | 2006年4月 | 当社に入社 | | |
| | | | 2008年1月 | 当社執行役員管理本部総務・人事グループGLに就任 | | |
| | | | 2019年6月 | 当社執行役員常務総務・人事グループGLに就任 | | |
| | | | 2021年4月 | 当社アシスタントディレクター 管理ユニット総務・人事チームマネージャーに就任 | | |
| | | | 2022年6月 | 当社取締役に就任（現任） 管理ユニット担当（現任） 総務・人事チーム長を委嘱（現任） | | |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|--------------------|-------|-----------------|----------|---|-------|---------------|
| 取締役 製造・開発ユニット管掌 | 武長 栄治 | 1978年4月 12日生 | 2001年7月 | スターバックスコーヒージャパン 株式会社に入社 | (注) 4 | 2 |
| | | | 2003年10月 | 有限会社ミックフーズに入社 | | |
| | | | 2004年10月 | 同社取締役に就任 | | |
| | | | 2005年8月 | 有限会社ジャパンフードシステム 代表取締役に就任 | | |
| | | | 2009年6月 | 当社に入社 | | |
| | | | 2013年6月 | 当社執行役員事業開発本部GLに就 任 | | |
| | | | 2019年2月 | 当社執行役員デルソーレ事業本部 生産本部副本部長兼千葉工場長に 就任 | | |
| | | | 2021年5月 | 当社アシスタントディレクター 製造・開発ユニット千葉工場長兼 生産技術チームマネージャーに就 任 | (注) 4 | 0 |
| | | | 2022年6月 | 当社取締役に就任(現任) 製造・開発ユニット管掌(現任) 千葉工場長を委嘱 | | |
| | | | 2024年3月 | 生産技術チーム長を委嘱 | | |
| 取締役 | 遠藤 貢 | 1948年3月 19日生 | 1970年4月 | キューピー株式会社に入社 | (注) 4 | 0 |
| | | | 1972年1月 | 三英食品販売株式会社に入社 | | |
| | | | 1987年2月 | 同社取締役に就任 | | |
| | | | 1990年12月 | キューピー株式会社に入社 | | |
| | | | | 広域営業部Pチーム部長に就任 | | |
| | | | 2001年2月 | 同社取締役広域営業部長に就任 | | |
| | | | 2002年2月 | 同社取締役業務用営業本部長に就 任 | | |
| | | | 2004年7月 | 同社取締役マーケティング本部長 に就任 | | |
| | | | 2010年2月 | 同社常務取締役商品開発部長に就 任 | | |
| | | | 2013年5月 | 株式会社ビー・アンド・イー・ ディレクションズ顧問に就任(現 任) | | |
| | | | 2014年3月 | 杉田エース株式会社顧問に就任 (現任) | | |
| | | | 2016年5月 | 一般社団法人国際食文化交流協会 理事に就任(現任) | | |
| | | | 2023年5月 | 株式会社トライ・インターナショ ナル社外取締役に就任(現任) | | |
| | | | 2023年6月 | 当社社外取締役に就任(現任) | | |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-------|--------|------------|--|--|------|---------------|
| 取締役 | 近藤 正樹 | 1955年1月5日生 | 1978年4月 2001年4月 2004年4月 2008年4月 2013年4月 2014年6月 2014年6月 2021年6月 2022年5月 2024年6月 2025年1月 2025年3月 | 三菱商事株式会社に入社 同社食品本部コーヒーユニットマネージャーに就任 同社食品本部付戦略企画室長に就任 ブラジル三菱商会社社長に就任 三菱商事株式会社生活産業グループCEO補佐に就任 日本KFCホールディングス株式会社代表取締役社長に就任 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社代表取締役社長に就任 日本KFCホールディングス株式会社顧問に就任 日本コロンビア友好協会理事に就任(現任) 当社社外取締役に就任(現任) 株式会社アスク社外取締役に就任(現任) 株式会社ユニカフェ社外取締役に就任(現任) | (注)4 | |
| 常勤監査役 | 金原 俊一郎 | 1959年4月6日生 | 1982年4月 1989年12月 1995年5月 2002年2月 2008年2月 2011年4月 2014年4月 2015年4月 2017年6月 2022年7月 2023年6月 | 三菱商事株式会社に入社 Japan Australia LNG(MIMI) Pty. Ltd.(在オーストラリア・メルボルン)財務経理部長に就任 三菱商事株式会社国際金融部課長に就任 米国三菱商事会社(在アメリカ合衆国・ニューヨーク)Senior Vice Presidentに就任 三菱商事株式会社トレジャラーオフィスコーポレートファイナンス・M&A室長に就任 同社財務開発部長に就任 同社財務部長兼三菱商事フィナンシャルサービス非常勤監査役に就任 同社理事財務部長兼三菱商事フィナンシャルサービス非常勤監査役に就任 日本KFCホールディングス株式会社取締役専務執行役員CFO兼日本ケンタッキーフライドチキン取締役に就任 当社顧問に就任 当社社外監査役に就任(現任) | (注)5 | 0 |

| 役職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | | 任期 | 所有株式数 (千株) |
|-----|-------|-------------------|-----------|--|-------|---------------|
| 監査役 | 高柳 泉 | 1950年 1 月 29日生 | 1973年 3 月 | 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社に入社 | (注) 5 | 28 |
| | | | 1987年 4 月 | 株式会社インターナショナル・プロセス・フーズ(旧株式会社コムサネット) 出向 | | |
| | | | 1991年 7 月 | 同社取締役外食事業部長に就任 | | |
| | | | 1994年11月 | 同社常務取締役外食事業本部長に就任 | | |
| | | | 1996年 4 月 | 同社代表取締役常務に就任 | | |
| | | | 2001年 4 月 | 同社代表取締役専務に就任 | | |
| | | | 2003年10月 | 当社執行役員常務に就任 | | |
| | | | | コムサ事業本部(現外食事業本部) 店舗開発・建築施設担当 | | |
| | | | 2006年 1 月 | 株式会社ほのぼの運動取締役に就任 | | |
| | | | 2012年 6 月 | 当社常勤監査役に就任 | | |
| | | | | 株式会社ほのぼの運動監査役に就任 | | |
| | | | 2014年 6 月 | 当社監査役に就任(現任) | | |
| 監査役 | 山田 勝重 | 1949年12月 19日生 | 1976年 4 月 | 最高裁判所司法研修所に入所 | (注) 5 | |
| | | | 1978年 4 月 | 蘇木・新明・土屋・下山田・長内法律事務所に入所 | | |
| | | | 1981年 4 月 | 山田法律特許事務所パートナー所長に就任(現任) | | |
| | | | 1990年 6 月 | 株式会社ミツウロコ(現株式会社ミツウロコグループホールディングス) 監査役に就任 | | |
| | | | 2003年 6 月 | 当社社外監査役に就任(現任) | | |
| | | | 2010年 1 月 | 日本メディカルビジネス株式会社社外監査役に就任(現任) | | |
| | | | 2015年 6 月 | 株式会社ミツウロコグループホールディングス取締役(監査等委員)に就任 | | |
| | | | 2018年 6 月 | 株式会社スーパーナース社外監査役に就任(現任) | | |
| | | | | 株式会社省電舎ホールディングス(現株式会社SDSホールディングス)取締役(監査等委員)に就任 | | |
| 計 | | | | | | 1,707 |

- (注) 1. 取締役アーネストM.比嘉は、代表取締役CEO大河原毅の義弟であります。
2. 取締役遠藤貢と近藤正樹は、社外取締役であります。
3. 監査役金原俊一郎と山田勝重は、社外監査役であります。
4. 取締役の任期は、2025年3月期に係る定時株主総会終結の時から2年間であります。
5. 監査役高柳泉の任期は、2022年3月期に係る定時株主総会終結の時から4年間、監査役金原俊一郎及び山田勝重の任期は、2023年3月期に係る定時株主総会終結の時から4年間であります。
6. 当社では、取締役会において意思決定された業務執行を代表取締役の指揮のもとに実行する執行役員制度を導入しております。執行役員は9名で、その構成は以下のとおりであります。

| | | | |
|------|-------|-----------|---|
| 執行役員 | 石沢清水 | 製造・開発ユニット | 多摩工場長 |
| 執行役員 | 加藤俊行 | 営業ユニット | 管掌役員代理 兼 レストラングループ長 兼 テイクアウトグループ長 |
| 執行役員 | 山中健二 | 営業ユニット | 管掌役員補佐 兼 営業推進室長 |
| 執行役員 | 中村 茂 | 営業ユニット | 管掌役員補佐 全国広域拡販担当 |
| 執行役員 | 柴田滋哉 | 製造・開発ユニット | 管掌役員補佐 兼 九州工場長 |
| 執行役員 | 内山俊樹 | 製造・開発ユニット | 管掌役員補佐 兼 特命担当 |
| 執行役員 | 栗本佳昭 | 営業ユニット | 管掌役員代理 食品事業営業統括 兼 大阪支店長 兼 大阪支店第二チーム長 |
| 執行役員 | 高橋好彦 | 製造・開発ユニット | ロジスティックチーム長 |
| 執行役員 | 伊多波宏之 | 管理ユニット | 経理・財務チーム長 |

社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

当社は、社外取締役及び社外監査役を選任するにあたり、独立性に関する基準または方針は設けておりませんが、東京証券取引所が定める独立役員に関する基準等を参考にしております。

社外取締役遠藤貢氏は、食料品上場企業における優れた経営実績と豊富な見識を有するとともに、営業からマーケティングおよび商品開発に亘る幅広い実務経験を持ち、当社の経営判断・意思決定の過程で助言・提言をいただくことを期待していることから、社外取締役として招聘したものであり、当社との間には特別な利害関係はありません。

社外取締役近藤正樹氏は、大手総合商社におけるグローバルなビジネス経験ならびに外食事業企業における優れた経営実績および消費者視点の豊富な見識を持ち、当社の経営判断・意思決定の過程で助言・提言をいただくことを期待していることから、社外取締役として招聘したものであり、当社との間には特別な利害関係はありません。

社外監査役金原俊一郎氏は、国際的企業における業務経験と財務および会計に関する相当程度の知見を有するとともに、独立的見地に立って当社の業務遂行全般の監査を行うに適した能力を有していることから、当社の監査機能の充実・強化を図るため、社外監査役として招聘したものであり、当社との間には特別な利害関係はありません。

社外監査役山田勝重氏は、弁護士としての経歴および専門的識見等に鑑み、独立的見地に立って当社の業務遂行全般の監査を行うに適した能力を有していることから、社外監査役として招聘したものであり、当社は同氏と顧問契約を締結しております。

なお、社外取締役遠藤貢氏、近藤正樹氏及び社外監査役金原俊一郎氏は、東京証券取引所の定める独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役会及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役が出席する取締役会において、定期的に内部監査室より内部監査報告が行われ、リスクの共有等相互連携が図られております。

また、社外監査役は、内部監査室、監査役会及び会計監査人と適時意見交換を行うことにより情報の共有と監督又は監査の充実強化を図っております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

監査役（当期末現在3名）は、取締役会へ出席し、全ての稟議書を閲覧する事によって取締役の意思決定をチェックするとともに、監査役会で決定した監査計画に基づき、適法性及び妥当性の観点から取締役の職務の執行、内部統制の運用状況等についての監視活動を行っております。また、経営会議への出席を求めることができ、適宜に取締役との面接及び内部監査室、会計監査人と意見交換を行うことにより情報の共有と監査内容の充実強化を図っております。

当事業年度において当社は監査役会を15回開催しており、個々の監査役の出席状況については次のとおりであります。

| 役職名 | 氏名 | 出席回数（出席率） |
|-------|--------|-----------|
| 常勤監査役 | 金原 俊一郎 | 15回（100%） |
| 監査役 | 高柳 泉 | 15回（100%） |
| 監査役 | 山田 勝重 | 15回（100%） |

監査役会においては、監査方針・監査計画の策定、監査報告書の作成、会計監査人の選解任、会計監査人の報酬に対する同意等に関する審議検討を行っております。

内部監査の状況

当社は内部監査部門として内部監査室（当期末現在1名）を設置しております。

内部監査室は、代表取締役CEOが承認する年間内部監査計画を基に監査を実施するほか、会計監査、監査役監査での留意事項等については重点的にその改善を確認し、業務プロセスの中で発生し得る重要なリスクへの対応状況を検証しております。さらに、監査結果は直接に代表取締役CEOへ報告されることとしておりますが、監査役への回付を通じて監査の相互連携と情報の共有化も図っております。また、定期的に取締役会、経営会議へ内部監

査報告を行っております。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

明星監査法人

b. 継続監査期間

7年間

c. 業務を執行した公認会計士

福島 泰三

中西 麻理

d. 監査業務に係る補助者の構成

当社の監査業務に係る補助者は、監査法人の決定に基づいており、公認会計士9名、その他4名であります。

e. 監査法人の選定方針と理由

監査法人の選定にあたっては、職業的専門家としての高い知見、独立性及び監査品質の確保、監査体制の適切性等の選定基準を監査役会で予め策定していることに加え、監査報酬の水準についても検討することとしております。その上で、明星監査法人は当社の会計監査の適正と信頼性を確保するうえで最適と判断したため選定しております。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役会は、監査法人の評価基準を定め、その基準に基づき評価を行っております。

具体的には、監査法人からの監査実施状況の定期報告、必要に応じて意見交換及び監査現場への立会等を通じて、監査法人の品質管理体制、監査チームの独立性と専門性及び監査業務の有効性と効率性等について評価を行い、問題は無いものと認識しております。

g. 監査法人の異動

該当事項はありません。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

| 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|----------------------|---------------------|----------------------|---------------------|
| 監査証明業務に基づく報酬 (千円) | 非監査業務に基づく報酬 (千円) | 監査証明業務に基づく報酬 (千円) | 非監査業務に基づく報酬 (千円) |
| 25,000 | - | 26,500 | - |

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに属する組織に対する報酬（a.を除く）

該当事項はありません。

c. その他重要な報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

該当事項はありません。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

前事業年度の監査実施状況及び監査報酬を勘案しつつ、当事業年度の監査計画における監査時間及び監査報酬の妥当性を検討するとともに経営及び執行部門の意見も聴取した結果、妥当な金額であると判断したためあります。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

当社取締役会は、取締役が受ける報酬等の額の決定に関する方針等を以下のとおり決定しております。また、監査役の個人別報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針等は決めておりませんが、監査役の協議によるものとされております。ただし、これらの報酬等は、株主総会において決議された報酬総額の範囲内で決定されるものであります。

取締役の報酬限度額は、2022年6月23日開催の第58期定時株主総会において年額400百万円以内（うち社外取締役は年額50百万円以内、ただし使用人分給与は含まない。）と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は12名であります。

監査役の報酬限度額は、1994年6月29日開催の第30期定時株主総会において年額30百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点での監査役の員数は3名であります。

当社の役員報酬は、固定報酬と役員退職慰労金による業績連動報酬以外の報酬等と業績連動報酬によって構成されており、これらの構成比率は、毎期の持続的な業績改善に加えて中長期的な業績の安定と向上を重視する観点に立ち、固定報酬に比重を置いて設定されております。ただし、非業務執行取締役の報酬等は、その役割に鑑みて業績連動報酬以外の報酬のみとしております。

固定報酬については、各役員の職務に対して毎月一定額を支給する報酬であり、役員退職慰労金については、在任期間に応じて所定額を引き当て、退任時に一括して支給する報酬であります。また業績連動報酬については、特定の指標に偏ることなく、さまざまな要因と成果を織り込む必要があることから、期初の業績予想値を指標とする達成度等を基礎としつつ経営環境を踏まえて、その支給総額についての妥当性を経営会議および取締役会において審議したうえで、その期の定時株主総会終了後に支給する報酬であります。なお、当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標は期初の業績予想値であり、実績は当事業年度の財務諸表等のとおりであります。

取締役の個人別報酬等の額またはその算定方法については、取締役会が決定いたします。取締役会においては、これを取締役会議長または代表取締役CEOに一任することを決議のうえ、役位・職責、業績および目標達成度等を総合的に勘案して決定されるものとしております。なお、当事業年度においては、2024年6月25日開催の取締役会の決議に基づき、代表取締役CEO大河原毅氏に対して、各取締役の個人別の報酬等の決定を委任いたしました。当社の多角的な事業展開に係る業績評価においては、各取締役の貢献度の判断等さまざまな要素を含むため、取締役会の合議等によることは難しいものと考えております。このため、社内外における経営環境ならびに経営状況を俯瞰しつつ業務執行を統括する、最高経営責任者（代表取締役CEO）による総合的な判断に基づき各取締役の報酬の内容が決定されるものいたしました。

また、上記のとおり取締役の個人別報酬等が決定されていることから、取締役会はその内容が決定方針に沿うものであると判断しております。

提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

| 役員区分 | 報酬等の総額 (千円) | 報酬等の種類別の総額(千円) | | | | 対象となる 役員の員数 (名) |
|--------------------|----------------|----------------|--------|----------------|-----------|-----------------------|
| | | 固定報酬 | 業績連動報酬 | 退職慰労引当 金繰入額 | ストックオプション | |
| 取締役 (社外取締役を除く。) | 202,835 | 159,500 | 16,800 | 26,535 | | 8 |
| 監査役 (社外監査役を除く。) | 7,000 | 6,000 | 500 | 500 | | 1 |
| 社外役員 | 22,641 | 20,150 | 700 | 1,791 | | 4 |

提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とした投資株式を純投資目的である投資株式とし、それ以外の投資株式を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

a. 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

良好な取引関係の維持・強化等業務上の必要性に基づいて株式を保有しております。保有した株式については、取締役会にて業務上の必要性や保有に伴う便益・リスクの検証を行い、保有の見直しを図っております。

b. 銘柄数及び貸借対照表計上額

| | 銘柄数 (銘柄) | 貸借対照表計上額の 合計額(千円) |
|------------|-------------|----------------------|
| 非上場株式 | 2 | 25,100 |
| 非上場株式以外の株式 | 5 | 56,249 |

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

| | 銘柄数 (銘柄) | 株式数の増加に係る取得 価額の合計額(千円) | 株式数の増加の理由 |
|------------|-------------|---------------------------|-----------------|
| 非上場株式 | - | - | - |
| 非上場株式以外の株式 | 2 | 2,725 | 取引先持株会を通じた株式の取得 |

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

| | 銘柄数 (銘柄) | 株式数の減少に係る売却 価額の合計額(千円) |
|------------|-------------|---------------------------|
| 非上場株式 | 1 | 114,000 |
| 非上場株式以外の株式 | 1 | 28,662 |

c. 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

| 銘柄 | 当事業年度 | 前事業年度 | 保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由 | 当社の株 式の保有 の有無 |
|-----------------------|------------------|------------------|--|---------------------|
| | 株式数(株) | 株式数(株) | | |
| | 貸借対照表計上額 (千円) | 貸借対照表計上額 (千円) | | |
| 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ | 49,270 | 49,270 | 安定的な取引関係を維持していくために保有しているものです。業務提携等はありません。定量的な保有効果については記載が困難であります。保有した株式については、定期的に業務上の必要性や保有に伴う便益・リスクの検証を行い、保有の見直しを図っております。 | 無 |
| | 99,081 | 76,713 | | |
| 尾家産業株式会社 | 27,460 | 26,125 | 安定的な取引関係を維持していくために保有しているものです。業務提携等はありません。定量的な保有効果については記載が困難であります。保有した株式については、定期的に業務上の必要性や保有に伴う便益・リスクの検証を行い、保有の見直しを図っております。同社の取引先持株会に加入していることから、保有株式数が増加しております。 | 無 |
| | 53,850 | 44,727 | | |
| 株式会社トーホー | 3,200 | 3,200 | 安定的な取引関係を維持していくために保有しているものです。業務提携等はありません。定量的な保有効果については記載が困難であります。保有した株式については、定期的に業務上の必要性や保有に伴う便益・リスクの検証を行い、保有の見直しを図っております。 | 無 |
| | 11,152 | 9,824 | | |
| 株式会社久世 | 3,000 | 3,000 | 安定的な取引関係を維持していくために保有しているものです。業務提携等はありません。定量的な保有効果については記載が困難であります。保有した株式については、定期的に業務上の必要性や保有に伴う便益・リスクの検証を行い、保有の見直しを図っております。 | 有 |
| | 5,604 | 6,843 | | |
| キーコーヒー株式会社 | 20 | 14,020 | 安定的な取引関係を維持していくために保有しているものです。業務提携等はありません。定量的な保有効果については記載が困難であります。保有した株式については、定期的に業務上の必要性や保有に伴う便益・リスクの検証を行い、保有の見直しを図っております。 | 無 |
| | 41 | 28,138 | | |

みなし保有株式

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したもの

該当事項はありません。

当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したもの

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（2024年4月1日から2025年3月31日まで）の財務諸表について、明星監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

また、監査法人等の各種団体が主催する研修への参加や、専門誌の購読等を行っております。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2024年3月31日) | 当事業年度 (2025年3月31日) |
|---------------|------------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,257,115 | 2,737,373 |
| 売掛金 | 2,844,330 | 2,026,992 |
| 商品及び製品 | 846,165 | 793,997 |
| 原材料及び貯蔵品 | 282,741 | 242,078 |
| 前払費用 | 87,195 | 86,991 |
| その他 | 51,166 | 110,878 |
| 流動資産合計 | 6,368,715 | 5,998,312 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 4,224,186 | 4,302,459 |
| 減価償却累計額 | 3,051,073 | 3,146,291 |
| 建物（純額） | 1,173,113 | 1,156,168 |
| 構築物 | 219,039 | 218,185 |
| 減価償却累計額 | 201,182 | 203,537 |
| 構築物（純額） | 17,856 | 14,647 |
| 機械及び装置 | ² 3,332,558 | ² 2,608,213 |
| 減価償却累計額 | 2,272,175 | 2,080,251 |
| 機械及び装置（純額） | 1,060,383 | 527,962 |
| 車両運搬具 | 23,480 | 23,480 |
| 減価償却累計額 | 18,416 | 20,734 |
| 車両運搬具（純額） | 5,064 | 2,745 |
| 工具、器具及び備品 | ² 352,439 | ² 351,631 |
| 減価償却累計額 | 258,434 | 266,158 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 94,004 | 85,472 |
| 土地 | 827,660 | 827,660 |
| 建設仮勘定 | 6,500 | 219,673 |
| 有形固定資産合計 | 3,184,583 | 2,834,331 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 11,209 | 8,511 |
| 無形固定資産合計 | 11,209 | 8,511 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2024年 3 月31日) | 当事業年度 (2025年 3 月31日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------|
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 229,849 | 194,829 |
| 関係会社株式 | - | 25,000 |
| 破産更生債権等 | 1,250 | 7,234 |
| 長期前払費用 | 222 | 89 |
| 繰延税金資産 | 501,757 | 773,514 |
| 敷金及び保証金 | 429,100 | 397,939 |
| その他 | 12,058 | 12,105 |
| 貸倒引当金 | 1,250 | 7,234 |
| 投資その他の資産合計 | 1,172,989 | 1,403,478 |
| 固定資産合計 | 4,368,782 | 4,246,320 |
| 資産合計 | 10,737,497 | 10,244,632 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 電子記録債務 | 66,542 | 105,403 |
| 買掛金 | 1,454,444 | 1,294,169 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 60,000 | 60,000 |
| 未払金 | 317,487 | 221,542 |
| 未払費用 | 233,987 | 205,949 |
| 未払法人税等 | 253,357 | 24,796 |
| 預り金 | 42,203 | 16,377 |
| 前受収益 | 293 | 1,390 |
| 賞与引当金 | 153,556 | 145,002 |
| 火災損失引当金 | - | 548,623 |
| 資産除去債務 | 32,400 | - |
| その他 | 119,856 | 8,151 |
| 流動負債合計 | 2,734,130 | 2,631,408 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 150,000 | 90,000 |
| 退職給付引当金 | 558,781 | 585,970 |
| 役員退職慰労引当金 | 244,892 | 273,718 |
| 資産除去債務 | 378,103 | 494,996 |
| その他 | 39,442 | 48,442 |
| 固定負債合計 | 1,371,219 | 1,493,128 |
| 負債合計 | 4,105,350 | 4,124,536 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2024年 3 月31日) | 当事業年度 (2025年 3 月31日) |
|--------------|-------------------------|-------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 922,939 | 922,939 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 1,125,651 | 1,125,651 |
| その他資本剰余金 | 133,554 | 133,554 |
| 資本剰余金合計 | 1,259,205 | 1,259,205 |
| 利益剰余金 | | |
| 利益準備金 | 72,215 | 72,215 |
| その他利益剰余金 | | |
| 別途積立金 | 610,000 | 610,000 |
| 繰越利益剰余金 | 3,794,158 | 3,264,492 |
| 利益剰余金合計 | 4,476,373 | 3,946,707 |
| 自己株式 | 87,436 | 87,489 |
| 株主資本合計 | 6,571,081 | 6,041,363 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 61,065 | 78,732 |
| 評価・換算差額等合計 | 61,065 | 78,732 |
| 純資産合計 | 6,632,146 | 6,120,096 |
| 負債純資産合計 | 10,737,497 | 10,244,632 |

【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
|------------|--|--|
| 売上高 | | |
| 製品売上高 | 13,011,865 | 10,469,033 |
| 商品売上高 | 1,738,382 | 1,840,563 |
| 外食売上高 | 3,034,408 | 3,094,138 |
| 売上高合計 | ¹ 17,784,656 | ¹ 15,403,734 |
| 売上原価 | | |
| 製品売上原価 | | |
| 製品期首棚卸高 | 727,450 | 712,858 |
| 当期製品製造原価 | 8,415,583 | 7,224,514 |
| 合計 | 9,143,033 | 7,937,372 |
| 製品他勘定振替高 | 33,620 | 192,328 |
| 製品期末棚卸高 | 712,858 | 661,043 |
| 製品売上原価 | 8,396,554 | 7,084,000 |
| 商品売上原価 | | |
| 商品期首棚卸高 | 245,206 | 131,300 |
| 当期商品仕入高 | 1,301,109 | 1,474,099 |
| 商品他勘定受入高 | 3,583 | 7,665 |
| 合計 | 1,549,899 | 1,613,064 |
| 商品他勘定振替高 | 7,587 | 8,193 |
| 商品期末棚卸高 | 131,300 | 131,013 |
| 商品売上原価 | 1,411,011 | 1,473,857 |
| 外食売上原価 | | |
| 店舗食材期首棚卸高 | 18,839 | 25,633 |
| 当期店舗食材仕入高 | 1,102,704 | 1,104,185 |
| 当期店舗食材製造原価 | 52,087 | 41,952 |
| 店舗食材他勘定受入高 | 13,006 | 11,763 |
| 合計 | 1,186,638 | 1,183,535 |
| 店舗食材他勘定振替高 | 3,583 | 7,665 |
| 店舗食材期末棚卸高 | 25,633 | 27,026 |
| 外食売上原価 | 1,157,421 | 1,148,843 |
| 売上原価合計 | 10,964,987 | 9,706,701 |
| 売上総利益 | 6,819,669 | 5,697,033 |
| 販売費及び一般管理費 | ² 5,599,197 | ² 5,135,870 |
| 営業利益 | 1,220,471 | 561,162 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
|-----------------------|--|--|
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 17 | 975 |
| 受取配当金 | 10,813 | 22,432 |
| 受取手数料 | 796 | 764 |
| 受取補償金 | 6 66,729 | 6 123,013 |
| 助成金収入 | 250 | - |
| 消耗品売却収入 | 33,866 | - |
| その他 | 17,911 | 11,769 |
| 営業外収益合計 | 130,386 | 158,955 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 2,896 | 902 |
| 支払保証料 | 6,755 | 6,737 |
| 設備休止費用 | 23,846 | - |
| 工場閉鎖損失 | 5,643 | - |
| 火災損失 | 8 42,640 | - |
| 操業停止関連費用 | - | 7 164,052 |
| その他 | 2,053 | 9,322 |
| 営業外費用合計 | 83,835 | 181,014 |
| 経常利益 | 1,267,022 | 539,103 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 1,465 | - |
| 投資有価証券売却益 | - | 78,021 |
| 国庫補助金受贈益 | 87,737 | 80,000 |
| 特別利益合計 | 89,202 | 158,021 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 5 318,741 | 5 145,812 |
| 固定資産除却損 | 4 7,530 | 4 622 |
| 店舗閉鎖損失引当金繰入額 | 11,006 | 4,769 |
| 固定資産圧縮損 | 83,657 | - |
| 火災損失 | - | 8 1,147,010 |
| その他 | 1,703 | - |
| 特別損失合計 | 422,640 | 1,298,215 |
| 税引前当期純利益又は税引前当期純損失（ ） | 933,585 | 601,090 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 288,854 | 102,699 |
| 法人税等調整額 | 45,283 | 280,984 |
| 法人税等合計 | 334,138 | 178,285 |
| 当期純利益又は当期純損失（ ） | 599,447 | 422,804 |

【製造原価明細書】

| | | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) | |
|----------|----------|--|------------|--|------------|
| 区分 | 注記 番号 | 金額(千円) | 構成比 (%) | 金額(千円) | 構成比 (%) |
| 材料費 | | 5,102,975 | 60.6 | 4,031,381 | 55.8 |
| 労務費 | | 1,840,375 | 21.9 | 1,758,466 | 24.3 |
| 経費 | | 1,472,231 | 17.5 | 1,434,666 | 19.9 |
| 当期総製造費用 | | 8,415,583 | 100.0 | 7,224,514 | 100.0 |
| 当期製品製造原価 | | 8,415,583 | | 7,224,514 | |

主な内訳は、次のとおりであります。

| 項目 | 前事業年度(千円) | 当事業年度(千円) |
|-------|-----------|-----------|
| 減価償却費 | 341,304 | 307,463 |
| 修繕費 | 248,970 | 308,938 |
| 電力料 | 198,902 | 188,886 |
| 賃借料 | 115,965 | 108,127 |
| 消耗品費 | 105,848 | 99,755 |

(原価計算の方法)

製品の原価計算は、標準原価に基づく総合原価計算を採用しており、原価差額については、期末で棚卸資産及び売上原価等へ調整配賦して実際原価へ修正しております。なお、日々完結の生産体制をとっているため、仕掛品は発生いたしません。

【店舗食材製造原価明細書】

| | | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) | |
|------------|----------|--|------------|--|------------|
| 区分 | 注記 番号 | 金額(千円) | 構成比 (%) | 金額(千円) | 構成比 (%) |
| 材料費 | | 26,589 | 51.0 | 18,350 | 43.7 |
| 労務費 | | 11,402 | 21.9 | 12,161 | 29.0 |
| 経費 | | 14,095 | 27.1 | 11,440 | 27.3 |
| 当期総製造費用 | | 52,087 | 100.0 | 41,952 | 100.0 |
| 当期店舗食材製造原価 | | 52,087 | | 41,952 | |

主な内訳は、次のとおりであります。

| 項目 | 前事業年度(千円) | 当事業年度(千円) |
|-----|-----------|-----------|
| 賃借料 | 3,888 | 3,888 |
| 電力料 | 1,163 | 968 |

(原価計算の方法)

店舗食材の原価計算は、実際原価計算を採用しております。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|-----------------------------|---------|-----------|--------------|-------------|--------|-------------------|-------------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 |
| | | 資本準備金 | その他 資本剰余金 | 資本剰余金 合計 | | その他利益剰余金 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | |
| 当期首残高 | 922,939 | 1,125,651 | 133,554 | 1,259,205 | 72,215 | 610,000 | 3,283,762 | 3,965,977 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 89,050 | 89,050 |
| 当期純利益 | | | | | | | 599,447 | 599,447 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額） | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | - | 510,396 | 510,396 |
| 当期末残高 | 922,939 | 1,125,651 | 133,554 | 1,259,205 | 72,215 | 610,000 | 3,794,158 | 4,476,373 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-----------------------------|--------|-----------|------------------|----------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証 券評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 87,436 | 6,060,685 | 21,118 | 21,118 | 6,081,804 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | 89,050 | | | 89,050 |
| 当期純利益 | | 599,447 | | | 599,447 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額） | | | 39,946 | 39,946 | 39,946 |
| 当期変動額合計 | - | 510,396 | 39,946 | 39,946 | 550,342 |
| 当期末残高 | 87,436 | 6,571,081 | 61,065 | 61,065 | 6,632,146 |

当事業年度(自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日)

(単位：千円)

| | 株主資本 | | | | | | | |
|-----------------------------|---------|-----------|--------------|-------------|--------|---------|-------------|-------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | | 利益準備金 | 利益剰余金 | | 利益剰余金 合計 |
| | | 資本準備金 | その他 資本剰余金 | 資本剰余金 合計 | | 別途積立金 | 繰越利益 剰余金 | |
| 当期首残高 | 922,939 | 1,125,651 | 133,554 | 1,259,205 | 72,215 | 610,000 | 3,794,158 | 4,476,373 |
| 当期変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当 | | | | | | | 106,861 | 106,861 |
| 当期純損失 | | | | | | | 422,804 | 422,804 |
| 自己株式の取得 | | | | | | | | |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額） | | | | | | | | |
| 当期変動額合計 | - | - | - | - | - | - | 529,665 | 529,665 |
| 当期末残高 | 922,939 | 1,125,651 | 133,554 | 1,259,205 | 72,215 | 610,000 | 3,264,492 | 3,946,707 |

| | 株主資本 | | 評価・換算差額等 | | 純資産合計 |
|-----------------------------|--------|-----------|------------------|----------------|-----------|
| | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証 券評価差額金 | 評価・換算 差額等合計 | |
| 当期首残高 | 87,436 | 6,571,081 | 61,065 | 61,065 | 6,632,146 |
| 当期変動額 | | | | | |
| 剰余金の配当 | | 106,861 | | | 106,861 |
| 当期純損失 | | 422,804 | | | 422,804 |
| 自己株式の取得 | 52 | 52 | | | 52 |
| 株主資本以外の項目 の当期変動額（純 額） | | | 17,667 | 17,667 | 17,667 |
| 当期変動額合計 | 52 | 529,718 | 17,667 | 17,667 | 512,050 |
| 当期末残高 | 87,489 | 6,041,363 | 78,732 | 78,732 | 6,120,096 |

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
|-----------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前当期純利益又は税引前当期純損失（ ） | 933,585 | 601,090 |
| 減価償却費 | 384,329 | 358,245 |
| 減損損失 | 318,741 | 145,812 |
| 退職給付引当金の増減額（ は減少） | 28,305 | 27,188 |
| 役員退職慰労引当金の増減額（ は減少） | 380,250 | 28,826 |
| 賞与引当金の増減額（ は減少） | 12,201 | 8,553 |
| 操業停止関連費用 | - | 129,159 |
| 火災損失 | - | 1,147,010 |
| 受取利息及び受取配当金 | 10,831 | 23,408 |
| 支払利息 | 2,896 | 902 |
| 投資有価証券売却損益（ は益） | - | 78,021 |
| 固定資産売却損益（ は益） | 1,465 | - |
| 固定資産除却損 | 7,530 | 622 |
| 固定資産圧縮損 | 83,657 | - |
| 受取補償金 | 66,729 | 123,013 |
| 売上債権の増減額（ は増加） | 142,166 | 817,337 |
| 棚卸資産の増減額（ は増加） | 351,090 | 74,720 |
| 仕入債務の増減額（ は減少） | 567,194 | 121,413 |
| 国庫補助金受贈益 | 87,737 | 80,000 |
| 未払消費税等の増減額（ は減少） | 94,446 | 110,120 |
| その他 | 60,222 | 243,894 |
| 小計 | 1,020,632 | 1,340,311 |
| 利息及び配当金の受取額 | 10,831 | 23,408 |
| 利息の支払額 | 2,685 | 869 |
| 補償金の受取額 | 66,729 | 123,009 |
| 助成金の受取額 | 250 | - |
| 国庫補助金の受取額 | 87,737 | 80,000 |
| 操業停止関連費用の支払額 | - | 129,159 |
| 火災損失の支払額 | - | 174,001 |
| 法人税等の支払額又は還付額（ は支払） | 76,754 | 359,263 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,106,740 | 903,435 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
|--------------------|--|--|
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 292,780 | 366,694 |
| 有形固定資産の売却による収入 | 1,465 | - |
| 資産除去債務の履行による支出 | 68,909 | 32,400 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 16,844 | 1,400 |
| 関係会社株式の取得による支出 | - | 25,000 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 1,673 | 2,725 |
| 投資有価証券の売却による収入 | - | 142,662 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | 564 | 5,726 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 45,831 | 36,812 |
| 保険積立金の解約による収入 | 181,134 | - |
| その他 | 30 | 248 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 152,371 | 254,719 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入金の返済による支出 | 260,000 | 60,000 |
| 自己株式の取得による支出 | - | 52 |
| 配当金の支払額 | 86,603 | 108,405 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 346,603 | 168,457 |
| 現金及び現金同等物の増減額（は減少） | 607,765 | 480,258 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 1,649,350 | 2,257,115 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,257,115 | 2,737,373 |

【注記事項】

(重要な会計方針)

1．有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は、移動平均法により算定）

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

2．デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

時価法

3．棚卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）によっております。

(1) 商品、原材料

月別総平均法

(2) 製品

月別総平均法

(3) 貯蔵品

主として移動平均法

4．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 7年～38年

機械及び装置 10年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

ただし、ソフトウェア（自社利用分）については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

5．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により算定し、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

(5) 店舗閉鎖損失引当金

店舗の閉店に伴い発生する損失に備えるため、閉店を決定した店舗について、将来発生すると見込まれる損失額を計上しております。

(6) 火災損失引当金

2024年10月に当社千葉工場において発生した火災による被災生産設備等の復旧等に要する支出に備えるため、今後の発生見込額を計上しております。

6．収益及び費用の計上基準

当社の主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下の通りであります。

(1) 食品事業

食品事業においては、食料品の製造・加工及び販売を行っております。このような製商品の販売については、顧客が支配を獲得することにより、当社の履行義務が充足されると判断しております。当社では、「収益認識に関する会計基準の適用指針」の出荷基準等の取扱いを適用し、製商品の出荷時から顧客に支配が移転される時までの期間が1～2日程度であるため、出荷時に収益を認識しております。

なお、製商品の販売のうち、当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する製商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

(2) 外食事業

外食事業においては、レストラン店舗におけるサービスの提供、食物販及び宅配の経営、フランチャイズ（ＦＣ）加盟者に対する物品の販売、ＦＣ加盟者に対する経営指導及び店舗運営指導等を行っております。

レストラン店舗におけるサービスの提供は、顧客からの注文に基づく料理の提供であり、顧客へ料理を提供し対価を受領した時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。

食物販及び宅配の経営、並びにＦＣ加盟者に対する物品の販売による収益は、顧客に商品を引き渡した時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。

ＦＣ加盟者に対する経営指導及び店舗運営指導等に基づくロイヤリティ収入は、契約相手先の売上等を算定基礎として測定し、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。

7．ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

為替予約については、繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっております。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

| | |
|---------|---------|
| （ヘッジ手段） | （ヘッジ対象） |
| 為替予約 | 外貨建予定取引 |

(3) ヘッジ方針

為替予約は、通常の取引の範囲内で、外貨建予定取引に係る将来の為替レートの変動リスクを回避することを目的に利用しております。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ取引開始時には、社内管理規程に基づき予想される相場変動をヘッジ手段に個別に対応させて有効性を判定しております。ヘッジ取引時以降は、ヘッジ対象とヘッジ手段との間の相関関係を社内管理規程に基づきテストしております。

8．キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、要求払預金及び取得日から３ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資であります。

（重要な会計上の見積り）

1．固定資産の減損損失

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

（単位：千円）

| | 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|--------|-----------|---------|-----------|---------|
| | 食品事業 | 外食事業 | 食品事業 | 外食事業 |
| 有形固定資産 | 2,875,889 | 202,402 | 2,535,929 | 202,741 |
| 無形固定資産 | 4,616 | 2,720 | 3,651 | 2,040 |
| 長期前払費用 | - | 185 | - | 89 |
| 減損損失 | 317,100 | 1,640 | 135,892 | 9,920 |

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

資産又は資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産から生ずる割引前将来キャッシュ・フローと固定資産簿価を比較し、減損の要否を決定しております。

（食品事業）

事業用資産について、管理会計上の単位を資産グループの基礎とし、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位でグルーピングを行っております。割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、主要な事業であるピザ、エスニックブレッド製品等の販売における予算及びその後の期間の業績見通しを基礎としております。

予算及びその後の期間の業績見通しにおいては、製品品目別、顧客・業態別、生産能力を考慮した中長期の売上高見込み、売上高成長率、売上総利益率を主要な仮定として用いております。当該見積りは、将来の不確実な経済状況や経営環境の変化によって重要な影響を受ける可能性があります。

(外食事業)

事業用資産について、各店舗における過去2か年の損益の趨勢、見積将来キャッシュ・フローを基礎に検討しており、割引前将来キャッシュ・フローの見積りは店舗ごとの予算及びその後の期間の成長率予想に基づいて見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済状況や経営環境の変化によって重要な影響を受ける可能性があります。

2. 繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|--------|---------|---------|
| 繰延税金資産 | 501,757 | 773,514 |

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産の認識は、将来の事業計画に基づく課税所得の発生時期及び金額によって見積っております。当該見積りは、将来の不確実な経済状況や経営環境の変化によって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の財務諸表において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

3. 火災損失引当金

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：千円)

| | 前事業年度 | 当事業年度 |
|---------|-------|---------|
| 火災損失引当金 | - | 548,623 |

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当社千葉工場にて2024年10月に発生した火災により生産設備の一部を焼損した他、隣接する生産設備についても消火活動等により損害を受けたことに伴い、生産設備の復旧のために必要と考えられる修繕費用等を見積額等を火災損失引当金として計上しております。

火災損失引当金の見積りに係る主要な仮定は、毀損した製造ラインの修繕費用等であり、火災の被害状況等を確認し、復旧工事に係る取引先との契約書や見積書等を用いて見積りを行っており、期末時点での判断に基づいております。

発生が見込まれる修繕費用等について、必要かつ十分な金額を計上していると考えておりますが、当該見積りについて、予想し得ない事象の発生や外部環境の変化等により復旧計画の見直しが必要となった場合、翌事業年度の財務諸表において、火災損失引当金の追加または減額が生じる可能性があります。

(未適用の会計基準等)

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取り扱いを定めるもの。

(2) 適用予定日

2028年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(損益計算書)

前事業年度において、独立掲記をしていた「営業外収益」の「受取賃貸料」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「営業外収益」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取賃貸料」180千円、「その他」17,731千円は、「営業外収益」の「その他」17,911千円として組み替えております。

(キャッシュ・フロー計算書)

前事業年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「受取補償金」は、金額的重要性が増したため、当事業年度において独立掲記いたしました。

前事業年度において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」に独立掲記しておりました「助成金収入」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度においては「その他」に含めて表示しております。

この結果、前事業年度の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「助成金収入」250千円及び「その他」に表示していた6,257千円は、それぞれ「受取補償金」66,729千円、「その他」60,222千円として組み替えております。

(会計上の見積りの変更)

(資産除去債務の見積りの変更)

当事業年度において、当社の工場の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務について、原状回復費用の新たな情報の入手に伴い、原状回復費用に関して見積りの変更を行いました。この見積りの変更による増加額112,067千円を変更前の資産除去債務残高に加算しております。

当該見積りの変更により、当事業年度の営業利益及び経常利益は31,790千円減少し、税引前当期純損失は31,790千円増加しております。

(貸借対照表関係)

- 1 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行と当座貸越契約を締結しております。
事業年度末における借入未実行残高等は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2024年3月31日) | 当事業年度 (2025年3月31日) |
|---------|-----------------------|-----------------------|
| 当座貸越極度額 | 2,600,000千円 | 2,600,000千円 |
| 借入実行残高 | - " | - " |
| 差引額 | 2,600,000千円 | 2,600,000千円 |

- 2 国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (2024年3月31日) | 当事業年度 (2025年3月31日) |
|----------------|-----------------------|-----------------------|
| 圧縮記帳額 | 83,657千円 | 83,657千円 |
| (うち、機械及び装置) | 83,038 " | 83,038 " |
| (うち、工具、器具及び備品) | 619 " | 619 " |

(損益計算書関係)

- 1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、財務諸表「注記事項（セグメント情報等）」に記載しております。

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
|--------------|--|--|
| 荷造運搬費 | 1,283,459千円 | 1,027,982千円 |
| 給料及び手当 | 1,628,293 " | 1,705,255 " |
| 賞与引当金繰入額 | 103,585 " | 95,858 " |
| 退職給付費用 | 33,268 " | 33,625 " |
| 役員退職慰労引当金繰入額 | 29,750 " | 28,826 " |
| 賃借料 | 442,223 " | 425,142 " |
| 減価償却費 | 42,207 " | 49,444 " |
| おおよその割合 | | |
| 販売費 | 88% | 86% |
| 一般管理費 | 12% | 14% |

- 3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
|--------|--|--|
| 建物 | 325千円 | - 千円 |
| 機械及び装置 | 1,140 " | - " |
| 計 | 1,465千円 | - 千円 |

- 4 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
|----------------|--|--|
| 建物（撤去費用含む） | 136千円 | - 千円 |
| 構築物（撤去費用含む） | - " | 82 " |
| 機械及び装置（撤去費用含む） | 3,934 " | 540 " |
| 工具、器具及び備品 | 1,766 " | - " |
| ソフトウェア | 1,692 " | - " |
| 計 | 7,530千円 | 622千円 |

5 減損損失

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 場所 | 用途 | 種類 |
|-----------------|------|-------------------------|
| 食品事業 首都圏、福岡県 | 製造設備 | 建物、機械及び装置、 工具、器具及び備品 |

資産のグルーピングは、管理会計上の単位を資産グループの基礎とし、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位としております。

現在及び今後の収益性を、製品品目別、顧客・業態別、生産能力等から考慮し、収益性の著しく低下した資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額317,100千円を減損損失として特別損失に計上しました。

減損損失の内訳は、建物48,123千円、機械及び装置265,929千円、工具、器具及び備品3,047千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスとなるため回収可能価額がないものとして評価しております。

| 場所 | 用途 | 種類 |
|-------------|------|-------------------------|
| 外食事業 首都圏 | 直営店等 | 建物、工具、器具及び備品、 長期前払費用 |

資産のグルーピングは、直営店舗については継続的な収支の把握を行っていることから各店舗をグルーピングの最小単位としております。

現在及び今後の経済情勢を鑑み、収益性の著しく低下した資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額1,640千円を減損損失として特別損失に計上しました。

減損損失の内訳は、建物1,072千円、工具、器具及び備品506千円、長期前払費用61千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスとなるため回収可能価額がないものとして評価しております。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

| 場所 | 用途 | 種類 |
|-----------------|------|-----------------------------|
| 食品事業 首都圏、福岡県 | 製造設備 | 建物、構築物、機械及び装置、 工具、器具及び備品 |

資産のグルーピングは、管理会計上の単位を資産グループの基礎とし、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位としております。

現在及び今後の収益性を、製品品目別、顧客・業態別、生産能力等から考慮し、収益性の著しく低下した資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額135,892千円を減損損失として特別損失に計上しました。

減損損失の内訳は、建物24,025千円、構築物463千円、機械及び装置109,804千円、工具、器具及び備品1,597千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスとなるため回収可能価額がないものとして評価しております。

| 場所 | 用途 | 種類 |
|-----------------|------|--------------|
| 外食事業 首都圏、広島県 | 直営店等 | 建物、工具、器具及び備品 |

資産のグルーピングは、直営店舗については継続的な収支の把握を行っていることから各店舗をグルーピングの最小単位としております。

現在及び今後の経済情勢を鑑み、収益性の著しく低下した資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額9,920千円を減損損失として特別損失に計上しました。

減損損失の内訳は、建物6,731千円、工具、器具及び備品3,189千円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、使用価値によっておりますが、将来キャッシュ・フローがマイナスとなるため回収可能価額がないものとして評価しております。

6 前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

受取補償金の内容は、主として当社製品在庫の一部を寄託する他社営業倉庫にて、2024年1月に発生した火災に関する補償金によるものであります。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

受取補償金の内容は、主として当社製品在庫の一部を寄託する他社営業倉庫にて、2024年1月に発生した火災に関する補償金によるものであります。

7 当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

当事業年度の損益計算書に計上している営業外費用の操業停止関連費用は、当社千葉工場にて2024年10月に発生した火災により、一部生産設備の操業が停止したことに伴い、操業停止中の減価償却費、休業手当等を営業外費用に振り替えた金額であります。

8 前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

火災損失の内容は、当社製品在庫の一部を寄託する他社営業倉庫にて2024年1月に発生した火災により、出荷不能となった在庫に係る損失であります。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

火災損失の内容は、当社千葉工場にて2024年10月に発生した火災による修繕費、固定資産の除却等による損失であります。一部については、今後発生する金額を見積もった上で、火災損失引当金として計上しております。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 (株) | 増加 (株) | 減少 (株) | 当事業年度末 (株) |
|-------|----------------|-----------|-----------|---------------|
| 普通株式 | 9,105,290 | - | - | 9,105,290 |

2. 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 (株) | 増加 (株) | 減少 (株) | 当事業年度末 (株) |
|-------|----------------|-----------|-----------|---------------|
| 普通株式 | 200,192 | - | - | 200,192 |

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|-------------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2023年6月28日 59期定時株主総会 | 普通株式 | 89,050 | 10.00 | 2023年3月31日 | 2023年6月29日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|-------------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2024年6月25日 60期定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 106,861 | 12.00 | 2024年3月31日 | 2024年6月26日 |

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 (株) | 増加 (株) | 減少 (株) | 当事業年度末 (株) |
|-------|----------------|-----------|-----------|---------------|
| 普通株式 | 9,105,290 | - | - | 9,105,290 |

2. 自己株式に関する事項

| 株式の種類 | 当事業年度期首 (株) | 増加 (株) | 減少 (株) | 当事業年度末 (株) |
|-------|----------------|-----------|-----------|---------------|
| 普通株式 | 200,192 | 100 | - | 200,292 |

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

| 決議 | 株式の種類 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり配当額 (円) | 基準日 | 効力発生日 |
|-------------------------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2024年6月25日 60期定時株主総会 | 普通株式 | 106,861 | 12.00 | 2024年3月31日 | 2024年6月26日 |

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

| 決議 | 株式の種類 | 配当の原資 | 配当金の総額 (千円) | 1株当たり 配当額(円) | 基準日 | 効力発生日 |
|-------------------------|-------|-------|----------------|-----------------|------------|------------|
| 2025年6月25日 61期定時株主総会 | 普通株式 | 利益剰余金 | 133,574 | 15.00 | 2025年3月31日 | 2025年6月26日 |

(注) 第61期の1株当たり配当額には、創立60周年記念配当3円が含まれております。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
|-----------|--|--|
| 現金及び預金勘定 | 2,257,115千円 | 2,737,373千円 |
| 現金及び現金同等物 | 2,257,115千円 | 2,737,373千円 |

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2024年 3 月31日) | 当事業年度 (2025年 3 月31日) |
|------|-------------------------|-------------------------|
| 1年以内 | 65,544 | 63,669 |
| 1年超 | 54,469 | 52,471 |
| 合計 | 120,013 | 116,140 |

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、また、資金調達については基本的には銀行等金融機関からの借入による方針です。デリバティブは、借入金の金利変動リスクや外貨建予定取引の為替リスクを回避するために利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、当社の与信管理規程に従い、取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、主な取引先の信用状況を定期的に把握する体制としております。

投資有価証券である株式は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握された時価が取締役会に報告されております。

また、非上場株式及び関係会社株式については、定期的に発行体の財務状況等の把握を行っております。

敷金及び保証金は、店舗等の賃貸借契約に伴うものであります。

営業債務である電子記録債務、買掛金及び未払金は、1年以内の支払期日であります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は営業取引及び設備投資に係る資金調達です。

デリバティブ取引の執行・管理については、取引権限を定めた社内規程に従って行っており、また、デリバティブの利用にあたっては、信用リスクを軽減するために、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

また、営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社では、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度(2024年3月31日)

(単位：千円)

| | 貸借対照表 計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------------------|--------------|---------|-------|
| 投資有価証券(2) | | | |
| 其他有価証券 | 166,246 | 166,246 | - |
| 敷金及び保証金 | 429,100 | 427,048 | 2,051 |
| 資産計 | 595,346 | 593,295 | 2,051 |
| 長期借入金 (1年内返済予定含む) | 210,000 | 208,934 | 1,065 |
| 負債計 | 210,000 | 208,934 | 1,065 |

(1) 現金及び預金、売掛金、電子記録債務、買掛金、未払金は、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、記載を省略しております。

(2) 市場価格のない株式等は、「投資有価証券」には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

| 区分 | 2024年3月31日 |
|-------|------------|
| 非上場株式 | 63,603 |

当事業年度(2025年3月31日)

(単位：千円)

| | 貸借対照表 計上額 | 時価 | 差額 |
|-----------------------|--------------|---------|-------|
| 投資有価証券(2) | | | |
| 其他有価証券 | 169,729 | 169,729 | - |
| 敷金及び保証金 | 397,939 | 396,006 | 1,932 |
| 資産計 | 567,668 | 565,736 | 1,932 |
| 長期借入金 (1年内返済予定含む) | 150,000 | 148,812 | 1,187 |
| 負債計 | 150,000 | 148,812 | 1,187 |

(1) 現金及び預金、売掛金、電子記録債務、買掛金、未払金は、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、記載を省略しております。

(2) 市場価格のない株式等は、上記表中には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

(単位：千円)

| 区分 | 2025年3月31日 |
|--------|------------|
| 非上場株式 | 25,100 |
| 関係会社株式 | 25,000 |

(注1) 金銭債権の決算日後の償還予定額
前事業年度(2024年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|------------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 2,257,115 | - | - | - |
| 売掛金 | 2,844,330 | - | - | - |
| 敷金及び保証金() | 81,373 | 163,524 | 3,000 | - |
| 合計 | 5,182,818 | 163,524 | 3,000 | - |

() 敷金及び保証金のうち、現時点において償還予定が確定していないものについては、記載をしておりません。

当事業年度(2025年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|------------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 2,737,373 | - | - | - |
| 売掛金 | 2,026,992 | - | - | - |
| 敷金及び保証金() | 71,331 | 135,699 | 9,011 | - |
| 合計 | 4,835,698 | 135,699 | 9,011 | - |

() 敷金及び保証金のうち、現時点において償還予定が確定していないものについては、記載をしておりません。

(注2) 長期借入金及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額
前事業年度(2024年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 長期借入金 | 60,000 | 60,000 | 60,000 | 30,000 | - | - |
| 合計 | 60,000 | 60,000 | 60,000 | 30,000 | - | - |

当事業年度(2025年3月31日)

| | 1年以内 (千円) | 1年超 2年以内 (千円) | 2年超 3年以内 (千円) | 3年超 4年以内 (千円) | 4年超 5年以内 (千円) | 5年超 (千円) |
|-------|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|-------------|
| 長期借入金 | 60,000 | 60,000 | 30,000 | - | - | - |
| 合計 | 60,000 | 60,000 | 30,000 | - | - | - |

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品

前事業年度（2024年3月31日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|-------------------------|---------|------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券 その他有価証券 株式 | 166,246 | - | - | 166,246 |
| 資産計 | 166,246 | - | - | 166,246 |

当事業年度（2025年3月31日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|-------------------------|---------|------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 投資有価証券 その他有価証券 株式 | 169,729 | - | - | 169,729 |
| 資産計 | 169,729 | - | - | 169,729 |

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前事業年度（2024年3月31日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|----------------------|--------|---------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 敷金及び保証金 | - | 427,048 | - | 427,048 |
| 資産計 | - | 427,048 | - | 427,048 |
| 長期借入金 (1年内返済予定含む) | - | 208,934 | - | 208,934 |
| 負債計 | - | 208,934 | - | 208,934 |

当事業年度（2025年3月31日）

| 区分 | 時価（千円） | | | |
|----------------------|--------|---------|------|---------|
| | レベル1 | レベル2 | レベル3 | 合計 |
| 敷金及び保証金 | - | 396,006 | - | 396,006 |
| 資産計 | - | 396,006 | - | 396,006 |
| 長期借入金 (1年内返済予定含む) | - | 148,812 | - | 148,812 |
| 負債計 | - | 148,812 | - | 148,812 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに、将来キャッシュ・フローを国債の利回りなど適切な指標を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

長期借入金の時価は、元利金の合計額と、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率を基に割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. 子会社株式及び関連会社株式

市場価格がない株式等の貸借対照表計上額

| 区分 | 前事業年度 (千円) | 当事業年度 (千円) |
|--------|---------------|---------------|
| 関連会社株式 | | 25,000 |
| 計 | | 25,000 |

2. その他有価証券

前事業年度(2024年3月31日)

| 区分 | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------------------------|------------------|--------------|------------|
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式 | 166,246 | 79,661 | 86,584 |
| 小計 | 166,246 | 79,661 | 86,584 |
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式 | - | - | - |
| 小計 | - | - | - |
| 合計 | 166,246 | 79,661 | 86,584 |

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額63,603千円)については、市場価格のない株式等であるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当事業年度(2025年3月31日)

| 区分 | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価 (千円) | 差額 (千円) |
|--------------------------------|------------------|--------------|------------|
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの 株式 | 169,729 | 56,249 | 113,480 |
| 小計 | 169,729 | 56,249 | 113,480 |
| 貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの 株式 | - | - | - |
| 小計 | - | - | - |
| 合計 | 169,729 | 56,249 | 113,480 |

(注) 非上場株式(貸借対照表計上額25,100千円)については、市場価格のない株式等であるため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 事業年度中に売却したその他有価証券

前事業年度(自 2023年4月1日 至 2024年3月31日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 2024年4月1日 至 2025年3月31日)

| 区分 | 売却額 (千円) | 売却益の合計額 (千円) | 売却損の合計額 (千円) |
|----|-------------|-----------------|-----------------|
| 株式 | 142,662 | 78,021 | - |
| 合計 | 142,662 | 78,021 | - |

3. 減損処理を行った有価証券

前事業年度において、該当事項はありません。

当事業年度において、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、退職金規程に基づく退職一時金制度を採用しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

| (単位：千円) | | |
|--------------|--|--|
| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
| 退職給付引当金の期首残高 | 530,476 | 558,781 |
| 退職給付費用 | 51,339 | 50,624 |
| 退職給付の支払額 | 23,034 | 23,435 |
| 退職給付引当金の期末残高 | 558,781 | 585,970 |

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

| (単位：千円) | | |
|---------------------|-----------------------|-----------------------|
| | 前事業年度 (2024年3月31日) | 当事業年度 (2025年3月31日) |
| 非積立型制度の退職給付債務 | 558,781 | 585,970 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 558,781 | 585,970 |
| 退職給付引当金 | 558,781 | 585,970 |
| 貸借対照表に計上された負債と資産の純額 | 558,781 | 585,970 |

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度51,339千円 当事業年度50,624千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前事業年度 (2024年3月31日) | 当事業年度 (2025年3月31日) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 繰延税金資産 | | |
| 投資有価証券評価損 | 21,353千円 | 1,021千円 |
| 会員権評価損 | 4,506 " | 4,638 " |
| 貸倒引当金 | 382 " | 2,280 " |
| 賞与引当金 | 47,018 " | 44,399 " |
| 減損損失 | 126,702 " | 153,907 " |
| 減価償却費 | 16,551 " | 29,764 " |
| 退職給付引当金 | 171,098 " | 184,409 " |
| 役員退職慰労引当金 | 74,985 " | 86,275 " |
| 未払事業税 | 19,521 " | 5,223 " |
| 資産除去債務 | 125,696 " | 156,023 " |
| 関係会社株式評価損 | 14,455 " | 14,880 " |
| 火災損失 | - " | 261,538 " |
| その他 | 48,878 " | 24,887 " |
| 繰延税金資産小計 | 671,152千円 | 969,250千円 |
| 評価性引当額 | 121,587 " | 115,150 " |
| 繰延税金資産合計 | 549,564千円 | 854,099千円 |
| 繰延税金負債 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 25,519千円 | 34,747千円 |
| 固定資産評価差額 | 153 " | 157 " |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | 22,134 " | 45,680 " |
| 繰延税金負債合計 | 47,807千円 | 80,585千円 |
| 繰延税金資産の純額 | 501,757千円 | 773,514千円 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

| | 前事業年度 (2024年3月31日) | 当事業年度 (2025年3月31日) |
|--------------------|-----------------------|-----------------------|
| 法定実効税率 | 30.6% | - |
| (調整) | | |
| 住民税均等割額 | 2.8% | - |
| 交際費等永久に損金に算入されない項目 | 1.2% | - |
| 評価性引当額の増減 | 1.1% | - |
| その他 | 0.0% | - |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 35.8% | - |

(注) 当事業年度は、税引前当期純損失であるため記載を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立したことに伴い、2026年4月1日以後開始する事業年度より、「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2026年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.6%から31.5%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)が11,462千円増加し、法人税等調整額が12,454千円、その他有価証券評価差額金が992千円、それぞれ減少しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 当該資産除去債務の概要

主として工場や外食店舗等の建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から14年～30年と見積り、割引率は0.2%～1.8%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
|-----------------|--|--|
| 期首残高 | 478,087千円 | 410,503千円 |
| 有形固定資産の取得に伴う増加額 | 5,072 " | 3,201 " |
| 時の経過による調整額 | 1,357 " | 1,557 " |
| 見積りの変更による増加額 | 10,310 " | 112,133 " |
| 資産除去債務の履行による減少額 | 84,324 " | 32,400 " |
| 期末残高 | 410,503千円 | 494,996千円 |

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

(1) 食品事業

食品事業においては、食料品の製造・加工及び販売を行っております。このような製商品の販売については、顧客が支配を獲得することにより、当社の履行義務が充足されると判断しております。当社では、「収益認識に関する会計基準の適用指針」の出荷基準等の取扱いを適用し、製商品の出荷時から顧客に支配が移転される時までの期間が1～2日程度であるため、出荷時に収益を認識しております。

なお、製商品の販売のうち、特定の委託生産取引契約に係る収益について、顧客への製商品の提供における当社の役割を判断した結果、当社は、在庫リスク及び価格設定の裁量権を有しておらず、当該他の当事者により製品が提供されるように手配することが当社の履行義務であることから、代理人として取引を行っている判断しております。当社が代理人に該当すると判断したものについては、他の当事者が提供する製商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

製商品の販売契約における対価は、顧客との個別契約に基づきますが、市場慣行に整合した支払期限となっており、約束した対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

また、リベートは売上高から控除しておりますが、重大な戻入が生じない可能性が非常に高い範囲でのみ収益を計上しております。リベートの見積りに際しては、顧客との契約に基づき、一定期間における売上の割戻し契約、販売実績に応じてリベート率を乗じる達成契約、又は を併せたりべート契約を基に算出しております。

(2) 外食事業

外食事業においては、レストラン店舗におけるサービスの提供、食物販及び宅配の経営、フランチャイズ（F C）加盟者に対する物品の販売、F C加盟者に対する経営指導及び店舗運営指導等を行っております。

レストラン店舗におけるサービスの提供は、顧客からの注文に基づく料理の提供であり、顧客へ料理を提供し対価を受領した時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。各月の収益として計上された金額は、利用者により選択された決済手段に従って、クレジット会社等が別途定める支払条件により履行義務充足後、短期のうちに支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

食物販及び宅配の経営、並びにF C加盟者に対する物品の販売による収益は、顧客に商品を引き渡した時点で履行義務が充足されることから、当該時点で収益を認識しております。約束された対価は履行義務の充足時点から概ね1ヶ月で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

F C加盟者に対する経営指導及び店舗運営指導等に基づくロイヤリティ収入は、契約相手先の売上等を算定基礎として測定し、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断しており、役務を提供する期間にわたり収益を認識しております。約束された対価は履行義務の充足時点から概ね1ヶ月で支払いを受けており、対価の金額に重要な金融要素は含まれておりません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、「食品事業」及び「外食事業」を営んでおり、取り扱う製品やサービスによって、当社の事業本部別に、各々が独立した経営単位として事業活動を展開しております。従って、当社は、取り扱う製品やサービス別のセグメントから構成されており、「食品事業」及び「外食事業」の2つを報告セグメントとしております。

「食品事業」はピザ・エスニックブレッド製品等の製造販売をしております。「外食事業」はレストラン店舗、食物販及び宅配の経営をしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、(重要な会計方針)における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、税引前当期純利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高は一般の取引価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情報
前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | 合計 |
|------------------------|------------|-----------|------------|
| | 食品事業 | 外食事業 | |
| 売上高 | | | |
| 一時点で移転される財又はサービス | 14,750,248 | 3,005,378 | 17,755,626 |
| 一定の期間にわたり移転される財又はサービス | - | 29,030 | 29,030 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 14,750,248 | 3,034,408 | 17,784,656 |
| 外部顧客への売上高 | 14,750,248 | 3,034,408 | 17,784,656 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 14,319 | 6,763 | 21,082 |
| 計 | 14,764,567 | 3,041,171 | 17,805,738 |
| セグメント利益 | 1,513,032 | 74,079 | 1,587,112 |
| セグメント資産 | 8,486,179 | 1,235,594 | 9,721,773 |
| その他の項目 | | | |
| 減価償却費 | 348,942 | 22,010 | 370,953 |
| 受取利息 | - | - | - |
| 支払利息 | 36,900 | 2,243 | 39,144 |
| 特別利益 | 85,122 | 4,080 | 89,202 |
| （固定資産売却益） | 1,465 | - | 1,465 |
| （国庫補助金受贈益） | 83,657 | 4,080 | 87,737 |
| （投資有価証券売却益） | - | - | - |
| 特別損失 | 408,289 | 14,350 | 422,640 |
| （減損損失） | 317,100 | 1,640 | 318,741 |
| （固定資産除却損） | 7,530 | - | 7,530 |
| （店舗閉鎖損失引当金繰入額） | - | 11,006 | 11,006 |
| （固定資産圧縮損） | 83,657 | - | 83,657 |
| （その他特別損失） | - | - | - |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 240,930 | 92,096 | 333,027 |

- (注) 1. セグメント利益は、損益計算書の税引前当期純利益と調整を行っております。
2. 減価償却費には、長期前払費用の償却額を含めております。
3. 有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の増加額を含めております。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

（単位：千円）

| | 報告セグメント | | 合計 |
|------------------------|------------|-----------|------------|
| | 食品事業 | 外食事業 | |
| 売上高 | | | |
| 一時点で移転される財又はサービス | 12,309,596 | 3,061,768 | 15,371,364 |
| 一定の期間にわたり移転される財又はサービス | - | 32,369 | 32,369 |
| 顧客との契約から生じる収益 | 12,309,596 | 3,094,138 | 15,403,734 |
| 外部顧客への売上高 | 12,309,596 | 3,094,138 | 15,403,734 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 12,583 | 14,429 | 27,012 |
| 計 | 12,322,179 | 3,108,567 | 15,430,747 |
| セグメント利益又はセグメント損失（ ） | 193,927 | 253,877 | 59,949 |
| セグメント資産 | 7,793,948 | 1,155,385 | 8,949,333 |
| その他の項目 | | | |
| 減価償却費 | 314,241 | 32,210 | 346,451 |
| 受取利息 | - | - | - |
| 支払利息 | 28,433 | 2,553 | 30,987 |
| 特別利益 | 76,524 | 81,496 | 158,021 |
| （固定資産売却益） | - | - | - |
| （国庫補助金受贈益） | 74,000 | 6,000 | 80,000 |
| （投資有価証券売却益） | 2,524 | 75,496 | 78,021 |
| 特別損失 | 1,283,525 | 14,690 | 1,298,215 |
| （減損損失） | 135,892 | 9,920 | 145,812 |
| （固定資産除却損） | 622 | - | 622 |
| （店舗閉鎖損失引当金繰入額） | - | 4,769 | 4,769 |
| （固定資産圧縮損） | - | - | - |
| （火災損失） | 1,147,010 | - | 1,147,010 |
| 有形固定資産及び 無形固定資産の増加額 | 413,860 | 41,189 | 455,049 |

(注) １．セグメント利益又はセグメント損失（ ）は、損益計算書の税引前当期純損失（ ）と調整を行っております。

２．減価償却費には、長期前払費用の償却額を含めております。

３．有形固定資産及び無形固定資産の増加額には、長期前払費用の増加額を含めております。

４．報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

| 利益又は損失（ ） | 前事業年度 | 当事業年度 |
|----------------------------|-----------|---------|
| 報告セグメント計 | 1,587,112 | 59,949 |
| 全社費用（注） | 653,295 | 661,256 |
| 棚卸資産の調整額 | 231 | 216 |
| 財務諸表の税引前当期純利益又は税引前当期純損失（ ） | 933,585 | 601,090 |

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

（単位：千円）

| 資産 | 前事業年度 | 当事業年度 |
|-----------|------------|------------|
| 報告セグメント計 | 9,721,773 | 8,949,333 |
| 全社資産（注） | 1,015,955 | 1,295,082 |
| 棚卸資産の調整額 | 231 | 216 |
| 財務諸表の資産合計 | 10,737,497 | 10,244,632 |

（注）全社資産は、主に管理部門に係る資産等であります。

（単位：千円）

| その他の項目 | 報告セグメント計 | | 調整額 | | 財務諸表計上額 | |
|--------------------|----------|-----------|--------|--------|---------|-----------|
| | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度 | 当事業年度 | 前事業年度 | 当事業年度 |
| 減価償却費 | 370,953 | 346,451 | 13,376 | 11,793 | 384,329 | 358,245 |
| 受取利息 | - | - | 17 | 975 | 17 | 975 |
| 支払利息 | 39,144 | 30,987 | 36,247 | 30,084 | 2,896 | 902 |
| 特別利益 | 89,202 | 158,021 | - | - | 89,202 | 158,021 |
| （固定資産売却益） | 1,465 | - | - | - | 1,465 | - |
| （国庫補助金受贈益） | 87,737 | 80,000 | - | - | 87,737 | 80,000 |
| （投資有価証券売却益） | - | 78,021 | - | - | - | 78,021 |
| 特別損失 | 422,640 | 1,298,215 | - | - | 422,640 | 1,298,215 |
| （減損損失） | 318,741 | 145,812 | - | - | 318,741 | 145,812 |
| （固定資産除却損） | 7,530 | 622 | - | - | 7,530 | 622 |
| （店舗閉鎖損失引当金繰入額） | 11,006 | 4,769 | - | - | 11,006 | 4,769 |
| （固定資産圧縮損） | 83,657 | - | - | - | 83,657 | - |
| （火災損失） | - | 1,147,010 | - | - | - | 1,147,010 |
| 有形固定資産及び無形固定資産の増加額 | 333,027 | 455,049 | 4,700 | - | 337,727 | 455,049 |

（注）１．減価償却費の調整額は、全社資産の減価償却費であります。

２．受取利息及び支払利息の調整額は、主に管理会計上の社内金利の消去であります。

３．有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、全社資産の設備投資額であります。

【関連情報】

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

| 顧客の名称又は氏名 | 売上高 | 関連するセグメント名 |
|------------|-----------|------------|
| 株式会社日本アクセス | 2,335,565 | 食品事業 |

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3．主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

| 顧客の名称又は氏名 | 売上高 | 関連するセグメント名 |
|------------|-----------|------------|
| 株式会社日本アクセス | 1,892,782 | 食品事業 |

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

該当事項はありません。

(持分法損益等)

| | 前事業年度 (自 2023年 4 月 1 日 至 2024年 3 月31日) | 当事業年度 (自 2024年 4 月 1 日 至 2025年 3 月31日) |
|-----------------------|--|--|
| 関連会社に対する投資の金額 | - | 25,000千円 |
| 持分法を適用した場合の投資の金額 | - | 24,785千円 |
| 持分法を適用した場合の投資損失()の金額 | - | 214千円 |

【関連当事者情報】

１．関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

前事業年度（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|-----------------------------|-----------------|-------|--------------|-----------|-------------------|------------------|-----------|-----------|--------|----------|
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 | 株式会社ヒガ・インダストリーズ | 東京都港区 | 50,000 | 食品・雑貨の輸入 | (被所有) 直接 - 間接 - | 同社製品の購入 役員の兼任 | 商品・原材料の仕入 | 1,321,052 | 電子記録債務 | 66,542 |
| | | | | | | | | | 買掛金 | 49,679 |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
市場価格を勘案し交渉の上決定しております。

当事業年度（自 2024年4月1日 至 2025年3月31日）

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権等の所有(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引の内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|-----------------------------|-----------------|-------|--------------|-----------|-------------------|------------------|-----------|-----------|--------|----------|
| 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社等 | 株式会社ヒガ・インダストリーズ | 東京都港区 | 50,000 | 食品・雑貨の輸入 | (被所有) 直接 - 間接 - | 同社製品の購入 役員の兼任 | 商品・原材料の仕入 | 1,450,069 | 電子記録債務 | 105,403 |
| | | | | | | | | | 買掛金 | 64,756 |

(注) 取引条件及び取引条件の決定方針等
市場価格を勘案し交渉の上決定しております。

２．親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(１株当たり情報)

| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
|-------------------------------|--|--|
| １株当たり純資産額 | 744.76 円 | 687.27 円 |
| １株当たり当期純利益金額又は１株当たり当期純損失金額() | 67.32 円 | 47.48 円 |

(注) １．潜在株式調整後１株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

２．１株当たり当期純利益金額又は１株当たり当期純損失金額()の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 2023年4月1日 至 2024年3月31日) | 当事業年度 (自 2024年4月1日 至 2025年3月31日) |
|-------------------------------|--|--|
| １株当たり当期純利益金額又は１株当たり当期純損失金額() | | |
| 当期純利益又は当期純損失()(千円) | 599,447 | 422,804 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益又は当期純損失()(千円) | 599,447 | 422,804 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 8,905,098 | 8,905,018 |

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類 | 当期首残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (千円) | 当期末残高 (千円) | 当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円) | 当期償却額 (千円) | 差引当期末 残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|----------------------|---------------|-----------------------------------|---------------|---------------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 建物 | 4,224,186 | 160,788 | 82,515 (30,757) | 4,302,459 | 3,146,291 | 146,648 | 1,156,168 |
| 構築物 | 219,039 | - | 854 (463) | 218,185 | 203,537 | 2,663 | 14,647 |
| 機械及び装置 | 3,332,558 | 64,758 | 789,104 (109,804) | 2,608,213 | 2,080,251 | 182,905 | 527,962 |
| 車両運搬具 | 23,480 | - | - | 23,480 | 20,734 | 2,318 | 2,745 |
| 工具、器具及び備品 | 352,439 | 14,928 | 15,736 (4,787) | 351,631 | 266,158 | 17,853 | 85,472 |
| 土地 | 827,660 | - | - | 827,660 | - | - | 827,660 |
| 建設仮勘定 | 6,500 | 225,657 | 12,484 | 219,673 | - | - | 219,673 |
| 有形固定資産計 | 8,985,866 | 466,133 | 900,694 (145,812) | 8,551,304 | 5,716,973 | 352,389 | 2,834,331 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| ソフトウェア | - | - | - | 17,540 | 9,028 | 4,098 | 8,511 |
| 無形固定資産計 | - | - | - | 17,540 | 9,028 | 4,098 | 8,511 |
| 長期前払費用 | 1,097 | - | 803 | 293 | 204 | 133 | 89 |

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

| | | | |
|--------|-------------|----------|-----------|
| 建物 | 多摩工場 | 除去債務見積変更 | 85,475千円 |
| 建物 | 九州工場 | 除去債務見積変更 | 26,591 " |
| 建物 | おめで鯛焼き立川立飛店 | 店舗内装工事等 | 18,222 " |
| 機械及び装置 | 多摩工場 | 食品製造機械等 | 31,628 " |
| 機械及び装置 | 九州工場 | 食品製造機械等 | 19,500 " |
| 機械及び装置 | 千葉工場 | 食品製造機械等 | 13,630 " |
| 建設仮勘定 | 千葉工場 | 食品製造機械等 | 219,673 " |

2. 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

| | | | |
|--------|------|--------|-----------|
| 建物 | 九州工場 | 減損損失計上 | 15,767千円 |
| 建物 | 多摩工場 | 減損損失計上 | 8,258 " |
| 機械及び装置 | 多摩工場 | 減損損失計上 | 89,945 " |
| 機械及び装置 | 九州工場 | 減損損失計上 | 19,859 " |
| 機械及び装置 | 千葉工場 | 火災損失計上 | 304,469 " |

なお、当期減少額のうち()内は内書で減損損失の計上額であります。

3. 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため「当期首残高」「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

| 区分 | 当期首残高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|-------------------------|---------------|---------------|-------------|---------------------|
| 短期借入金 | - | - | - | - |
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | 60,000 | 60,000 | 0.48 | - |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) | 150,000 | 90,000 | 0.48 | 2026年6月～ 2027年9月 |
| 合計 | 210,000 | 150,000 | - | - |

(注) 1. 「平均利率」については、借入金の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

| 区分 | 1年超2年以内 (千円) | 2年超3年以内 (千円) | 3年超4年以内 (千円) | 4年超5年以内 (千円) |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| 長期借入金 | 60,000 | 30,000 | - | - |

【引当金明細表】

| 区分 | 当期首残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (目的使用) (千円) | 当期減少額 (その他) (千円) | 当期末残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| 貸倒引当金 | 1,250 | 5,984 | - | - | 7,234 |
| 賞与引当金 | 153,556 | 145,002 | 153,556 | - | 145,002 |
| 役員退職慰労引当金 | 244,892 | 28,826 | - | - | 273,718 |
| 火災損失引当金 | - | 735,829 | 187,205 | - | 548,623 |

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

| 区分 | 金額(千円) |
|------|-----------|
| 現金 | 5,633 |
| 預金 | |
| 当座預金 | 400,603 |
| 普通預金 | 2,326,214 |
| 別段預金 | 4,922 |
| 計 | 2,731,740 |
| 合計 | 2,737,373 |

売掛金

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|----------------------|-----------|
| 株式会社日本アクセス | 250,127 |
| 株式会社シジシージャパン | 218,126 |
| 株式会社サイゼリヤ | 130,563 |
| 三菱食品株式会社 | 104,668 |
| UCCコーヒープロフェッショナル株式会社 | 85,514 |
| その他 | 1,237,990 |
| 合計 | 2,026,992 |

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

| 当期首残高 (千円) (A) | 当期発生高 (千円) (B) | 当期回収高 (千円) (C) | 当期末残高 (千円) (D) | 回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$ | 滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$ |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|--|---|
| 2,844,330 | 18,436,979 | 19,254,317 | 2,026,992 | 90.5 | 48.2 |

商品及び製品

| 区分 | 金額(千円) |
|----------|---------|
| 商品 | |
| 食品事業関連商品 | 131,013 |
| 外食事業関連商品 | 1,939 |
| 計 | 132,953 |
| 製品 | |
| 食品事業関連製品 | 661,043 |
| 計 | 661,043 |
| 合計 | 793,997 |

原材料及び貯蔵品

| 区分 | 金額(千円) |
|-------------|---------|
| 原材料 | |
| 食品事業関連原材料 | 72,323 |
| 食品事業関連包装用資材 | 102,807 |
| 外食事業関連食材等 | 24,912 |
| その他 | 174 |
| 計 | 200,217 |
| 貯蔵品 | |
| 食品事業製造機械部品 | 40,108 |
| その他 | 1,752 |
| 計 | 41,861 |
| 合計 | 242,078 |

繰延税金資産

繰延税金資産は、773,514千円であり、その内容については「第5〔経理の状況〕1〔財務諸表等〕(1)〔財務諸表〕〔注記事項〕(税効果会計関係)」に記載しております。

敷金及び保証金

| 区分 | 金額(千円) |
|--------|---------|
| 店舗 | 264,735 |
| 事務所・工場 | 129,107 |
| その他 | 4,096 |
| 合計 | 397,939 |

電子記録債務

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|-----------------|---------|
| 株式会社ヒガ・インダストリーズ | 105,403 |
| 合計 | 105,403 |

期日別内訳

| 期日 | 金額(千円) |
|---------|---------|
| 2025年4月 | 105,403 |
| 合計 | 105,403 |

買掛金

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|------------------------|-----------|
| 株式会社喜屋草間商店 | 278,225 |
| デイリー・プロダクツ・ソリューション株式会社 | 231,638 |
| 株式会社ラクト・ジャパン | 110,518 |
| 朋和産業株式会社 | 106,524 |
| 株式会社ヒガ・インダストリーズ | 64,756 |
| その他 | 502,506 |
| 合計 | 1,294,169 |

長期借入金

| 区分 | 金額(千円) |
|-------------|------------------|
| 株式会社三菱ＵＦＪ銀行 | 75,000 (30,000) |
| 株式会社みずほ銀行 | 50,000 (20,000) |
| 株式会社三井住友銀行 | 25,000 (10,000) |
| 合計 | 150,000 (60,000) |

(注) () 内の金額は内書で、貸借対照表の流動負債「１年内返済予定の長期借入金」に計上しております。

退職給付引当金

退職給付引当金は、585,970千円であり、その内容については「第５〔経理の状況〕１〔財務諸表等〕（１）〔財務諸表〕〔注記事項〕（退職給付関係）」に記載しております。

(3) 【その他】

当事業年度における半期情報等

| | 第１四半期 累計期間 | 中間会計期間 | 第３四半期 累計期間 | 当事業年度 |
|---|---------------|-----------|---------------|------------|
| 売上高 (千円) | 3,974,839 | 8,138,920 | 12,348,452 | 15,403,734 |
| 税引前中間(四半期)(当期) 純利益又は税引前中間(四 半期)(当期)純損失() (千円) | 328,396 | 704,694 | 179,966 | 601,090 |
| 中間(四半期)(当期)純利益 又は中間(四半期)(当期)純 損失() (千円) | 241,703 | 489,513 | 133,800 | 422,804 |
| １株当たり中間(四半期) (当期)純利益又は１株当 たり中間(四半期)(当期)純損 失() (円) | 27.14 | 54.97 | 15.03 | 47.48 |

| | 第１四半期 会計期間 | 第２四半期 会計期間 | 第３四半期 会計期間 | 第４四半期 会計期間 |
|---|---------------|---------------|---------------|---------------|
| １株当たり四半期純利益又 は１株当たり四半期純損失 () (円) | 27.14 | 27.83 | 70.00 | 32.45 |

(注) 第１四半期累計期間及び第３四半期累計期間に係る財務情報に対するレビュー : 無

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|------------|--|
| 事業年度 | 4月1日から3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月中 |
| 基準日 | 3月31日 |
| 剰余金の配当の基準日 | 9月30日 3月31日 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 単元未満株式の買取り | |
| 取扱場所 | (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 株主名簿管理人 | (特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 |
| 取次所 | - |
| 買取手数料 | 株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額 |
| 公告掲載方法 | 当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 |
| 株主に対する特典 | なし |

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第60期（自 2023年4月1日 至 2024年3月31日） 2024年6月26日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2024年6月26日関東財務局長に提出。

(3) 半期報告書及び確認書

第61期中（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日） 2024年11月14日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書

2024年6月27日関東財務局長に提出。

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）の規定に基づく臨時報告書

2025年2月14日関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2025年 6 月24日

株式会社デルソーレ
取締役会 御中

明星監査法人

東京都千代田区

指 定 社 員 公認会計士 福 島 泰 三
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公認会計士 中 西 麻 理
業 務 執 行 社 員

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社デルソーレの2024年4月1日から2025年3月31日までの第61期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社デルソーレの2025年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

| 食品事業の固定資産に係る減損 | |
|--|---|
| 監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由 | 監査上の対応 |
| <p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、株式会社デルソーレ（以下、会社）の当事業年度の貸借対照表に計上されている有形固定資産2,834,331千円、無形固定資産8,511千円及び長期前払費用89千円のうち、食品事業セグメントに含まれる有形固定資産及び無形固定資産は2,539,580千円であり、総資産の24.8％となっている。会社は、当事業年度において食品事業に係る固定資産について減損損失135,892千円を計上した。</p> <p>減損の兆候の有無の判定、減損損失測定の要否の判定に当たり、会社は、保有する固定資産について、管理会計上の単位を資産グループの基礎とし、独立したキャッシュ・フローを生み出す最小単位でグルーピングを行っている。資産又は資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産から生ずる割引前将来キャッシュ・フローと固定資産簿価を比較し、減損の要否を決定している。将来キャッシュ・フローの見積りは、主要な事業であるピザ、エスニックブレッド製品等の販売における予算及びその後の期間の業績見通しを基礎としている。</p> <p>予算及びその後の期間の業績見通しにおいては、製品品目別、顧客・業態別、生産能力を考慮した中長期の売上高見込み、売上高成長率、売上総利益率を主要な仮定として用いており、当該見積りは、将来の不確実な経済状況や経営環境の変化によって重要な影響を受ける可能性がある。</p> <p>将来キャッシュ・フローの見積りにおける上記の主要な仮定は不確実性を伴い、経営者の判断が必要であることから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項と判断した。</p> | <p>当監査法人は、会社が実施した食品事業に係る固定資産の減損を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取締役会等の議事録、稟議書の査閲、会社による検討資料と固定資産台帳との照合により、全ての資産が検討対象となっていることを検証した。 ・将来キャッシュ・フローの見積期間について、主要な資産の経済的残存使用年数と比較した。 ・将来キャッシュ・フローについては、経営者によって承認された予算との整合性を検証した。 ・経営者の見積りプロセスの有効性を評価するために、過年度における予算とその後の実績を比較した。 ・見積りに含まれる主要な仮定について、過年度における損益の趨勢と予算及びその後の期間の業績見通しを比較し、また、経営者に質問を行うことにより、将来キャッシュ・フローの見積りの妥当性を検討した。 ・将来キャッシュ・フローの見積りに用いられた中長期の売上高見込み及び売上高成長率については、経営者による不確実性の評価を検討した。 |

| 千葉工場の火災に係る会計処理 | |
|---|--|
| 監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由 | 監査上の対応 |
| <p>【注記事項】（重要な会計上の見積り）に記載のとおり、2024年10月に株式会社デルソーレ（以下、会社）の千葉工場において火災が発生し、生産設備の一部を焼損した他、隣接する生産設備についても消火活動等により損害を受け、当事業年度の貸借対照表に「火災損失引当金」548,623千円を計上した。これに伴い、当事業年度の損益計算書に「操業停止関連費用」164,052千円を営業外費用に、「火災損失」1,147,010千円を特別損失として計上した。</p> <p>当該引当金、営業外費用及び特別損失の範囲並びに計上額については、会社の棚卸資産及び有形固定資産の毀損のほか、一時的な操業停止の影響や生産体制の復旧、並びに関連する費用や損失など、多岐にわたる影響を考慮する必要があり、経営者による重要な判断を伴う。また、当該火災による影響が会社の財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼしている。</p> <p>そのため、当該火災により計上すべき引当金、関連費用及び損失の範囲並びに計上額については経営者の判断を伴うこと、並びに財務諸表に対する影響が金額的及び質的に重要性が高いことから、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項と判断した。</p> | <p>当監査法人は、当該火災に係る引当金、営業外費用及び特別損失の計上額を検討するに当たり、主として以下の監査手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営者に対する質問、取締役会議事録及び関連証憑の閲覧により、火災により発生した費用及び損失の内容や性質を理解し、営業外費用又は特別損失としての計上区分の妥当性を検討した。 ・千葉工場に往査し、火災が発生した生産設備及び周辺の固定資産を実査するとともに、復旧の状況について質問を実施して、被害の状況を把握するとともに、有形固定資産の除却の網羅性を検討した。 ・千葉工場における棚卸資産の棚卸立会を実施し、棚卸資産の毀損状況を検討した。 ・「操業停止関連費用」及び「火災損失」として集計されている棚卸資産及び有形固定資産の毀損、火災による操業停止期間に発生した製造固定費、その他関連する営業外費用及び特別損失について、経営者に対する質問により、各項目の計上区分に係る判断過程を理解するとともに、関連証憑を閲覧し、営業外費用及び特別損失の計上額の妥当性を検討した。 ・火災損失引当金について、経営者に対する質問により、対象範囲に係る判断過程を理解するとともに、見積書等の証憑を閲覧することで、将来発生が見込まれる復旧費用について、計上額の妥当性を検討した。 ・取締役会議事録等の閲覧に加えて、期末日後一定期間の会計システムのデータを閲覧し、当事業年度の当該火災に係る営業外費用及び特別損失として計上すべき取引の有無を検討した。 |

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、財務諸表及びその監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社デルソーレの2025年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社デルソーレが2025年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等(3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
 - 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。